

## [47] radix : 九州大学全学共通教育広報

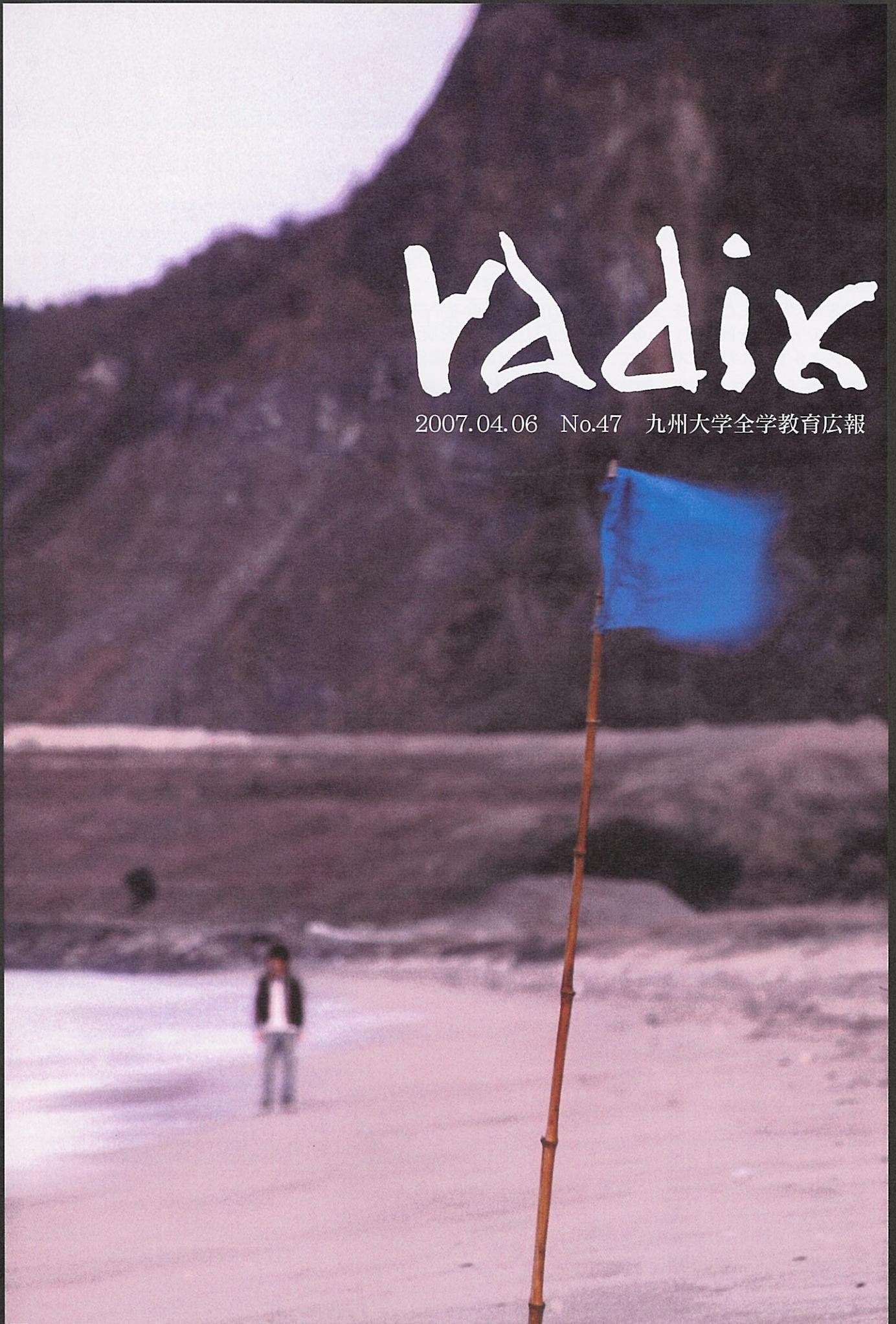
<https://hdl.handle.net/2324/20412>

---

出版情報 : radix. 47, 2007-04-06. 九州大学教養部大学教育研究センター  
バージョン :  
権利関係 :

# Radix

2007.04.06 No.47 九州大学全学教育広報





# 九大を使いこなそう 初心者編～これだけは読んでおこう～

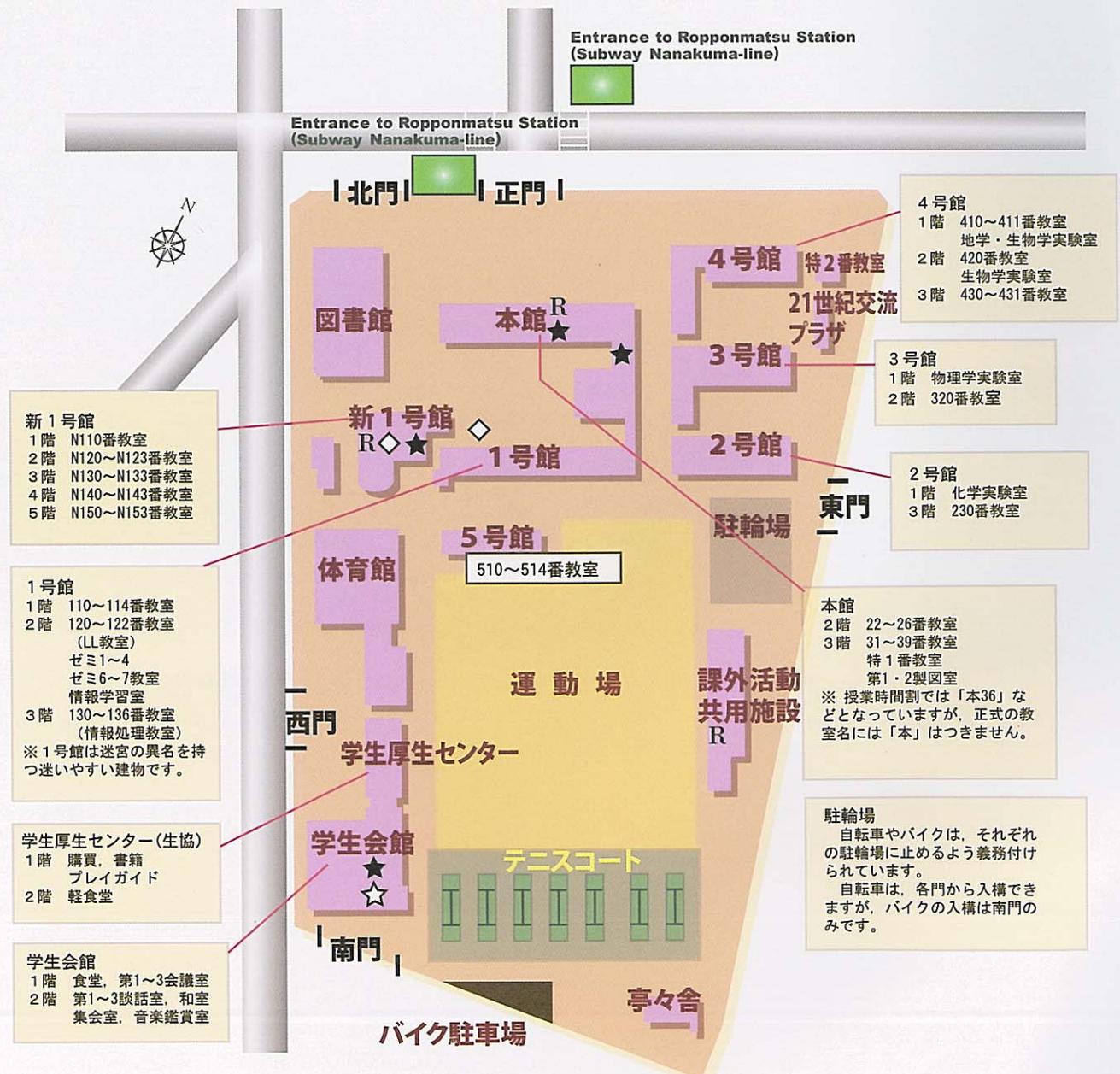
Let's enjoy Opportunities, Chances and Facilities offered by Kyushu University.

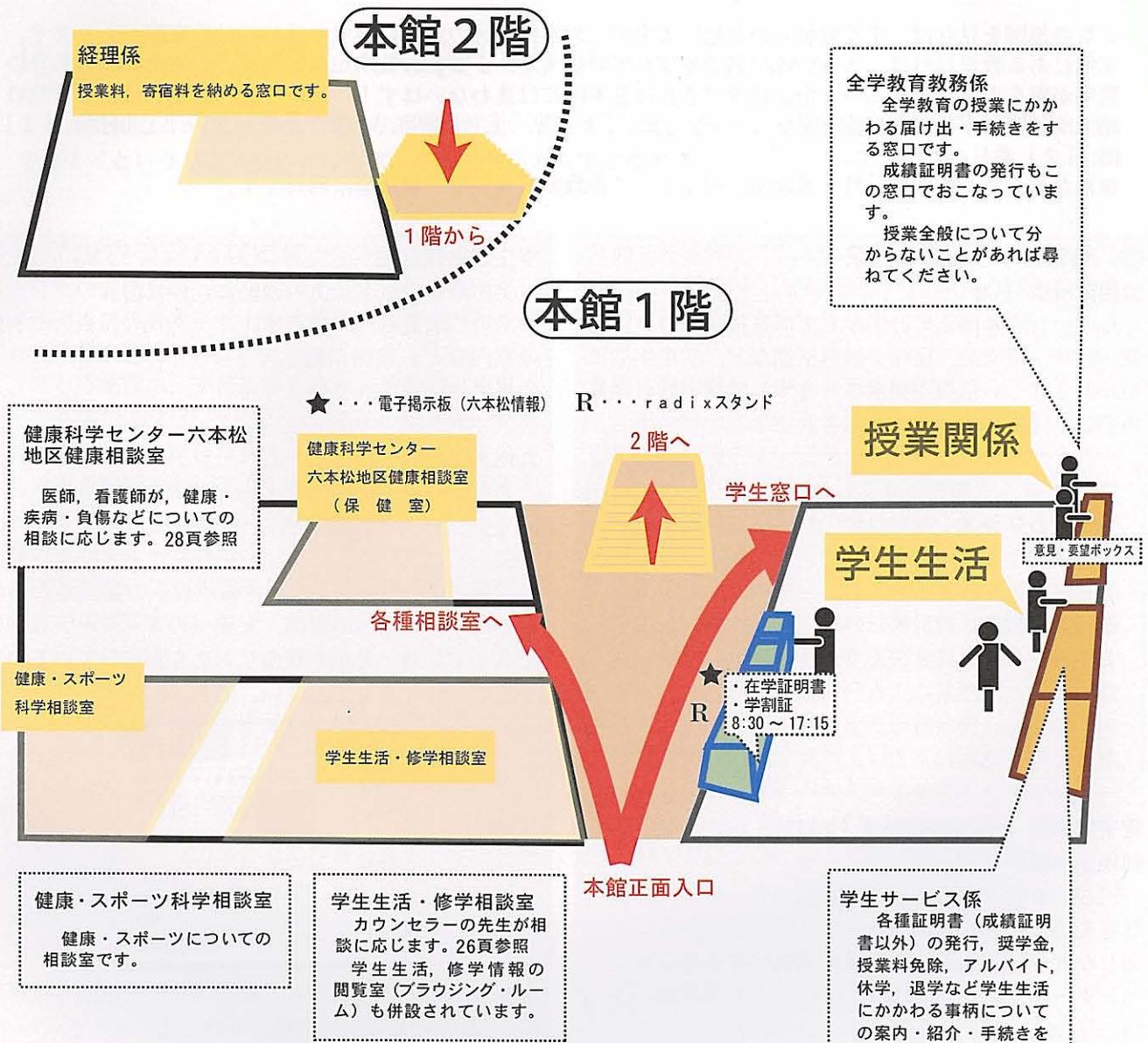
新入生の皆さん、入学おめでとうございます。受験の重荷からもすっかり解放され、これから始まる大学生活に向けて様々な希望を抱いていることと思いますが、大学生活を過ごすということは、これまで体験してきた高校生活とはずいぶん違い、自主的に動くことが重要になってきます。授業の登録、試験時間割の受取りをはじめ、高校生活では先生たちがやってくれていたことを自分で手続きを行っていかねばなりません。

そこでradixを読んでいるあなただけ特別に、九大を賢く使いこなす方法を伝授いたします！ここで紹介するスキルをふんだんに利用して、大学生活をおおいに楽しんでください。

## ①六本松キャンパスの施設・建物をマスターしよう！

この地図があれば、最初の講義のときに「あれ、教室の場所はどこかな？」という事態が起きても大丈夫！教室の場所を尋ねられても胸を張ってこたえられることでしょう！





## お世話になることが多い本館1階！

六本松地区で修学する間は、六本松地区で事務手続きを行います。各種手続きや相談など、日常的に困ったときにも本館1階にお世話になる機会が多いはず。この手続き・相談はどこですればいいのかな？ということを感じるときのために把握しておきましょう。

詳しい内容は、「学生案内」「全学教育科目履修要項」「全学教育科目履修の手引き」など、入学と同時に大量に渡された冊子の山の中から、これらの特に重要な冊子を掘り出して、確かめてください。

なお、各種窓口の受付時間は

全学教育教務係, 学生サービス係	8:30~17:15
課外活動係	8:30~17:15
経理係	9:00~17:00

“九大を使いこなそう”は川口匡子 (21世紀プログラム卒業生) とその仲間達が担当した03年版を編集委員会が改訂

2頁の地図を見れば、すぐ気付くかと思いますが、六本松地区の多くの教室の呼称には約束事があります。本館にある教室以外は、3桁の呼び名で呼ばれていますが、1番目の数字が教室が存在する建物、2番目の数字が階を表します。この2桁が解読できれば基本的には迷わないはず！ちなみに、「N1」は新1号館の略です。例えば 110番教室なら「1」号館、「1」階、「1」番目、111番教室なら「1」号館、「1」階、「2」番目の教室です。

※ただし、特1番教室、特2番教室、ゼミ1～7番教室、実験室、製図室は例外です。

## ② 情報のキャッチ&発信

### 公用掲示板 (◇)

2ページの地図上で◇で示してある掲示板です。授業、試験、奨学金、留学、課外活動など、学生生活にかかわる詳しい情報が掲示されます。学科や教員からの情報、呼び出しなども掲示されます。

#### 注意！ 掲示板をチェックしないと……

**受講するクラス**：授業は全て自由に取れるというわけではなく、クラス指定やクラス振り分け、受講登録があります。

**教科書・教室**：教科書以外に、器具や指定レポート用紙が必要な場合があります。**掲示板の情報を見落とすと、授業にスムーズに参加できないかもしれません。掲示板のチェックは、1日1回を基本にしてください。**

### 電子掲示板 (★六本松情報 ☆箱崎・病院・大橋・伊都地区情報)

同じく★☆で示してある掲示板です。休講、補講、教室変更など授業に関する一般情報、事務からの呼び出しなどが掲示されます。随時更新。電子掲示板は、インターネットからも閲覧可です。アドレスは <http://zkslbweb.rc.kyushu-u.ac.jp/keiji.php>  
※全学教育に関するお知らせや休講・補講等の情報は携帯電話でも閲覧可能です。

携帯サイト <http://zkslbweb.rc.kyushu-u.ac.jp/i/>



### クラス掲示板

本館と1号館の渡り廊下に設置されています。クラス内での情報伝達や連絡に自由に使用できます。

### 学生専用掲示板

学生厚生センター下の通路と、体育館前のグラウンド沿いに設置されています。サークルの発表会や学内の案内など、自由に掲示できます。(この場所以外への掲示は許可されていません。)

### 九州大学六本松地区ホームページアドレス

アドレス <http://www.rc.kyushu-u.ac.jp>

「シラバス(授業計画)」の最新版がチェックできます。

授業によっては、「クラス掲示板」が開設される場合があります。先生への質問、友達へのメッセージに利用できます。サークルや寮のリンクも充実しているので、一度は訪れてみてください。



シラバスや事務連絡など、覗くべき情報は盛りだくさん。「お気に入り」に登録しておきましょう！

### radix (九州大学全学教育広報) (R)

主に全学教育に関する情報を掲載していて、年3回(4月、10月、1月頃)発行しています。学生・留学生・先輩の手記や、メッセージ、授業や留学に関わる記事など。常に多岐にわたる九大の使い方が得られるはず。本館玄関、新1号館1階スタンドをマメにチェックしてみてください。

### 全学教育についての「意見・要望」BOX

六本松地区の授業、窓口、施設など勉学と生活に関わるすべてのことについて、意見、要望、訴えがあれば、この「意見・要望」ボックスに投函してみてください。署名があれば必ず返答します。

全学教育教務係カウンター及び六本松附属図書館分館に設置してあります。

## 応用編～さらにこんな使い方が～

これまで初心者編で、九大の使い方の基本を説いてきましたが、さらに、授業料分は骨の髄まで利用してやる！ という心意気があるならば、こんな使い方もできます。

### サークルやコンパなどに—————

九大では、無料でサークルの練習場所、合宿所やコンパの会場が調達できます。

これらの施設は、事前に申し込んで使用許可を取ることによって利用できます。(申込先は次頁の申込先一覧を参照してください。)

九大生の特権ですので、大いに利用いたしましょう！

#### 普通教室のグループ利用

特別（グループ）利用申し込みは、10日前から前日の午前中までです。

#### 学生会館のグループ利用

特別（グループ）利用申し込みは、4週間前から前日の午前中までです。

#### 亭々舎

クラス、グループの読書会や懇談会場として利用できます。

申し込みは利用日の1ヶ月前から3日前までです。

#### 体育館、グラウンド、テニスコート

これらの施設を自由に利用できる時間帯があり、道具の貸出も行っています。

### 学外の研修施設—————

九大生であれば、学外にある格安の合宿施設も利用することができます。



九大山の家（大分県玖珠郡九重町筋湯）

九州大学の学生・教職員のゼミや合宿、登山の基地としてどうぞ。

#### 九重共同研修所（九大山の家の横）

九州地区の国立大学の学生・教職員の研修施設です。山の家に宿泊した際に併せて利用できます。

#### 島原共同研修センター（島原市郊外）

九重研修所と同様九州大学の学生・教職員のゼミや合宿に利用できます。

### 自由に使える場所—————

大学生は高校と違い、ホームルームが無い流浪の民です。そんな大学生が空き時間や、休み時間を過ごすための自由に使える場所をご紹介します。

#### 図書館

学生証が入館証を兼ねています。入館の際には、入館ゲートにバーコードを認識させてください。

図書館の本を無断で持ち出すと、万引き防止装置(?)が警報を発するので、注意してください。

開館時間：月曜～金曜 授業期間 9:00～20:00

試験期間 9:00～22:00

夏休み等 9:00～17:00

土曜・日曜・祝日 10:00～17:00

休館日：8月中旬の3日間、年末年始等

※詳しくは開館スケジュール（図書館で配布もしくはホームページ）をチェックしてください。

図書館のホームページ：

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/roppnmatsu/>



学生向けの学習書及び一般教養書が多数揃っています。

### パソコンが利用できる教室

学生用パソコンの設置された教室としては、1号館2階120～122番教室（第1～第3LL教室）、情報学習室、3階130～136番教室があり、全部で500台を超える端末が利用できます。

授業が入っていない時間帯にはこれらの教室で自習が行えます。情報学習室と134教室は終日授業が入りません。印刷は130、134、136教室で行えます。設備内容は教室毎に異なりますので、情報基盤センター発行の「教育用システム利用の手引き」等でご確認ください。

また、各教室とも、教室内での飲食は厳禁です。利用可能な日時・利用方法は各教室入り口にある掲示やホームページで確認し、入室するようにしてください。

「ネットアカデミー」等のオンライン外国語学習教材の他、134教室にはDVD/VHS視聴覚教材も豊富に揃っていますので、利用希望の方は134教室またはLL準備室まで問い合わせてください。

#### 【利用問い合わせ先】

○第1～第3LL教室について：

#### LL準備室

受付時間：8：30～15：30（昼休み除く）

場 所：六本松キャンパス1号館東側（第1LL教室隣り）

E-mail: call@flc.kyushu-u.ac.jp

○情報学習室、131～135番教室について：

#### 134番教室

受付時間：9：00～17：00（昼休み除く）

場 所：六本松キャンパス1号館2階（中央階段登る）

E-mail: rcedu@mail.rche.kyushu-u.ac.jp

○130、136番教室について：

#### 情報基盤センター六本松地区分室

受付時間：10：00～16：00（昼休み除く）

場 所：附属図書館六本松分館2階

E-mail: uketsuke@s.kyushu-u.ac.jp

（夕方以降は130、136教室にプログラム相談員がいます。）



### 学生会館（食堂、談話室）、軽食堂、トリトン

食堂は、営業の終了時間まで。学生会館内にある談話室のうち、第1および第3談話室は16時まで、第2談話室は21時まで自由に利用できます。

## 施設の利用申し込み手続きは、この表を参考に！

種別	手続先係名等	必要書類・手続期間等	注意事項等
教室使用願	課外活動共用施設窓口	使用日の10日前～前日の午前中	
亭々舎使用願		使用日の1カ月前～3日前	
学生会館使用願	体育館窓口	学内者のみの使用 4週間前～前日の午前中 学外者を含む使用 4週間前～1週間前	
体育施設一般使用		一般使用時の時間帯は窓口に掲示	○土曜日の体育施設使用は課外活動共用施設窓口で要予約
運動用具短期貸出し		学生証と引き換え（土曜日を除く）	○体育館等での一時使用
登山用具短期貸出し		学生証	○1カ月前から予約可
九重山の家利用願	課外活動共用施設窓口	利用日の2カ月前～15日前	○1年前から予約可
九重共同研修所予約 同上利用申し込み		1年前～2カ月前 2カ月前～15日前（要予約）	○5人以上の団体であること。
島原共同研修所予約 ・利用申し込み			
松原寮・貝塚寮・井尻寮入居申し込み	学生サービス係	7月、翌年2月	○田島寮に入居中の学生は、田島寮事務室で入居の申し込みを行ってください。

# 六本松地区事務窓口案内

六本松地区で主に修学する1年半（医・歯・薬・芸術工学部は1年）の間、皆さんは六本松地区にある全学教育事務室で事務手続きを行います。詳しい内容は、配付済みの「学生案内」「全学教育科目履修要項」「全学教育科目履修の手引き」などで確かめてください。下の事務手続一覧を参照するほか、分からないところは各係の窓口で尋ねてください。

各係の窓口受付時間 全学教育教務係、学生サービス係、課外活動係 — 8:30~17:15

経 理 係 ————— 9:00~17:00

## 事 務 手 続 一 覧

種 別	手続先係名等	必要書類・手続期間等	注 意 事 項 等
聴 講 届 提 出	各授業担当教員	各学期授業開始第1週目	本年度前期は4月9日~4月13日 本年度後期は10月1日~10月5日 受講制限をすることがあります。
履 修 ・ 受 験 届 提 出	全学教育教務係	各学期授業開始第2週目	本年度前期は4月16日~4月20日 本年度後期は10月10日~10月16日
履 修 ・ 受 験 届 確 認		5月上旬, 10月下旬	
追 試 験 願		出願理由を証明する書類 原則として当該試験から3日以内	病気の場合は医師の診断書, 忌引 の場合は葬儀のはがきなど。
成 績 証 明 書		学生証 3日後に交付 英文の場合は7日後に交付	
日 本 学 生 支 援 機 構 奨 学 金 奨 学 生 募 集	学生サービス係	4月中旬(1, 2年生)	インターネットを利用して手続き を行います。 詳しくは公用掲示板をご覧ください。
各 種 奨 学 金 募 集		4~5月頃に集中	地方自治体の奨学金はそれぞれの教育 委員会に問い合わせてください。
授 業 料 免 除 付 願 書 交		6月下旬(平成19年度後期分) 1月下旬(平成20年度前期分)	詳しくは公用掲示板をご覧ください。
学生教育研究災害保険の加入受付		4月, 10月	
ア ル バ イ ト の 登 録 ア ル バ イ ト の 紹 介		4月上旬 常時	窓口の紹介簿で各自選択。
通 学 証 明 書 証 書 付 学 生 証 再 交 付		学生証 即日交付 学生証 即日交付 学生証 即日交付 学生証再発行願 再発行願提出後1週間程度	学割証, 在学証明書については, 自動発行機により発行。 学生証を紛失, 汚損したら必ず再 交付を受けてください。
定 期 試 験 受 験 証 明		当該日ごとに交付	定期試験に学生証を忘れた場合。
現 住 所 変 更 届 保 本 籍 地 変 更 届 改 姓 ・ 改 名 届		学生証	現住所など変更したら直ちに届け てください。
休 復 学 願 退 学 学 願		保証人が連署した願書 クラス指導教員の署名・押印 病気の場合は診断書添付、経済的理 由の場合は保証人の所得証明書添付	
海 外 渡 航 届		保証人承諾書, 旅行計画書	
自 動 車 入 構 許 可 証	学生証, 免許証, 車検証	特別な事情で自動車通学が必要と 認められる場合に限り。サー クル部活動など課外活動に関係す る場合は, 課外活動係へ申し出て ください。	
盗 難 届		警察への届け出も必要です。	

※手続きの期間は変更されることがあるので、公用掲示板や電子掲示板の掲示をよく見てください。

※願, 届出, 申込等の手続用紙は, 担当係の窓口に用意されているので, 必要ときには申し出てください。

# ケンブリッジ・ミュンヘンで外国語を学ぼう

九州大学では以下のような語学研修旅行があります。興味が湧いたらどうぞ説明会へ！

	研修先	期間	人数	研修内容	説明会その他
英語研修	ケンブリッジ大学 ペンブローック カレッジ	8月上旬から 9月初頭の 3～4週間	30名程度	8ヶ月にわたり事前研修。現地では少人数制英語集中コース、英国文化・科学に関する教養講義科目に、晩餐会と様々なオプション活動。週末は原則自力で準備した個人旅行（事前指導します）。	平成19年夏分は選考済。20年夏分は5～11月に申込受付。申込者多数の際は選抜あり。詳細は下記で。 <a href="http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/cambridge.htm">http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/cambridge.htm</a>
ドイツ語研修	ミュンヘン大学	3月上旬から 4週間	他大学の学生も含め45名程度	最初の2週間の午前中はミュンヘン大学での少人数集中授業、午後は街での実地研修。次の1週間は小都市と小さな村に分かれてホームステイ。最後の1週間は自由行動期間。	説明書は4月下旬から配付。説明会は5月中旬頃。夏休みの終わりに選抜試験があり、合格者には10月から合宿を含む毎月1回の講習会、月に2～3回の少人数勉強会等。

## ケンブリッジ大学英語研修

### 【世界最高峰の大学で学ぶ生涯一度の好機】

毎年夏にケンブリッジ大学英語研修が実施されています。世界最高峰ケンブリッジ大学への正規留学は超難関で、本研修はケンブリッジ大学で学ぶ恐らくは生涯でただ一度の機会です。8月という時期もあり費用は高いのですが、それだけの価値があります。過去の参加者は行って見るまでわからない生涯最高の経験と感動して帰国します。世界クラスの現地学生とも交流し、志の高い九大生と互いを高めあい、人生に奮い立つような思いをします。飛び込んでみませんか。

### 【研修先の紹介】

研修先であるペンブローックカレッジは1347年創立、30以上あるカレッジでも3番目に古く、英国最年少の首相小ピット、詩人スペンサーにグレイ、経済学のケインズ等々有名で、定期試験で全カレッジのトップに立ったこともある最高のカレッジです。場所も市街地でケンブリッジ大学区域の中央にあります。花が咲き乱れ、完璧な芝生と荘厳な建築物に囲まれ、いるだけで幸福になるキャンパスです。

### 【研修の内容】

事前研修では、各自の英語や英国に関する計画に沿って学習を進め、数回ある学習連絡会で発表したり、旅行等の実用的知識も得て、諸準備を進めます。現地では構内にある本物の学生寮の個室に宿泊、カレッジが直接責任運営する（場所を貸すだけのものとはわけが違います）九大生専用プログラムで学びます。現地学生の専属アシスタントが3名ほどつき、ケム川のボート、パブ、ダンス、サッカーなど様々なオプション

行事を計画してくれます。また事前研修で個人の方で旅行を準備する能力を養成しますので、手作りのプランで週末旅行を個人手配していただけます。

類似の研修にない点としては、正装での晩餐会を数回経験することが挙げられます。礼服での古式ゆかしきディナーはまさにハリー・ポッターの世界です。

なお、この研修には修了証書も発行されます。

### 【申し込みにあたって】

今夏分は35名が選考済みです。来夏分の詳細は上記の表内のURLにアクセスしてください。参加者の英語力はまちまちですのであまり恐れる必要はないです。TOEFL420点～620点まで、幅広い方々が参加されます。現地研修の英語クラスは能力別になるので大丈夫です。

鈴木 右文（言語文化研究院）



ペンブローックカレッジのチャペル前でドリンクレセプション



## 感謝の日々

法学部3年 ひら た 平 田 え り

こんにちは。昨年ケンブリッジ大学英語研修に参加した平田えりと申します。今回は、私の経験からこの研修を紹介したいと思います。

一言でいうと、イギリスでの一ヶ月は本当に濃い、充実した一ヶ月でした。歴史を重ねた美しいカレッジ、学生の能力を最大限に伸ばそうとしてくれる現地の先生方、楽しく親切にお世話をしてくれるTA（カレッジの学生）、そして毎日支えあい、笑いあった研修の友達…一生の宝物です。

ケンブリッジでの生活は、朝9時からの授業で始まります。授業は、生徒が主体的に取り組むことのできるように構成されていて、ゲームなどを交えつつ、かつ、真剣に学ぶことができます。そして授業の後は、TAの企画する楽しいイベントが待っています。同年代のTAとスポーツやゲームをしたり、将来について話したり…と盛りだくさんです（もちろん、各自の判断でパスしてもよいです）。週末は原則として、研修生6～8人が一班となって小旅行に繰り出します。自分たちで企画するので、小旅行を終えた後は達成感を得られるはずですよ。

このように楽しく、充実した一ヶ月を紹介しましたが、正直な所、私は研修に参加するまで異国の地で一ヶ月間やっていけるか不安でした。今、この研修に参加しようか不安で迷われている方もいらっしゃると思います。しかし、一歩踏み出してみれば、かけがえない日々を過ごすことができます。ケンブリッジ大学で学ぶなど、そうそうできることではありません。

また、この研修では出発までの10ヶ月間、数回の事前研修があります。この事前研修では、英語の学習方法を先生に相談したり、事前準備やケンブリッジでの生活、週末旅行の説明等を受けることができます。たいていの疑問や不安は事前研修で解消できます。

私はこの研修に参加できたことに本当に感謝しています。素晴らしい出会いと経験が得られたのはたくさんの方々のおかげです。ありがとうございました。



芝生の美しいキャンパス

## ゲーテン・ターク、ドイッチュラント！

春休みの1ヶ月間、日本を飛び出してドイツでドイツ語を使ってみませんか？ 美しい街並みを誇る環境先進国、音楽・文学・哲学のふるさと、過去にファシズムが席卷し、日本と同じく奇跡の復興を遂げた敗戦国、そしてソーセージとビールの国…。ドイツには尽きせぬ魅力があります。

この研修旅行は今年で24年目を迎えた、日本における「外国語研修旅行」の草分けで、全国にその名が知られています。研修の柱は3本。まずミュンヘン大学で2週間のドイツ語集中講座を受けます。完全少人数制のインテンシブ授業で、午後からは学生食堂や街中でドイツ人にインタビューをするといった宿題も出ます。次にミュンヘン近郊の小さな村と、シュトゥットガルト近郊の小都市に分かれて1週間のホームステイ。単なる「お客さん」ではなく、料理も子守りもしてもらいます。ただの語学研修では決して得られない「ウルルン体験」があなたを待っています。3番

目に1週間の自由行動。自分の研修テーマを追って、ドイツ、スイス、オーストリアに飛び出します。原則は一人旅。ドイツ語でサバイバルです。

この研修には九大生以外も参加します。大学・学年・専攻の垣根を越えて、「生涯の友」を得ることができるのも、この旅行の大きな魅力です（「生涯の伴侶」



ミュンヘンの目抜き通りへの入り口、カール門

## 世界・日本

に巡りあった学生も多数!)。参加人数は総勢で45名程度、九大では4月後半から「説明書」を配布、5月末頃「説明会」があります。ただし9月の初め頃に「選抜試験」があり、これに合格しないと参加資格が得られません。試験に合格しても月1回の講習会や、ほぼ隔週で行われる勉強会があります。日本とドイツでの学習時間を合わせるとなんと3500分以上。これは

単に授業時間であり、自宅学習やホームステイ中の会話、また夢に出てくる(うなされる?)ドイツ語を合わせると、ドイツ語を何年も勉強するような効果が必ず得られます。

費用は35万円プラスお小遣い程度でしょうか。詳しくはドイツ語の津村教員、あるいは福元まで。

福元圭太(言語文化研究院)

## 「第二の故郷」

21世紀プログラム課程4年



お した ゆう こ  
尾 下 優 子

海外に旅行する楽しみって何ですか? もちろん、自国にはない建造物や自然、芸術を見たり、おいしい物を食べることもですが、そこの国の文化を実際に『感じられること』が一番ではないでしょうか。

2006年の春、私は「ドイツ語とドイツ文化研修旅行」に参加しました。海外に行くのは初めてではありませんでしたが、そこの国の言葉をしっかり勉強していくのは初めてでした。

ドイツに行つての最初の2週間は、ミュンヘンでの語学研修で、教室で先生から学ぶドイツ語や、実際に街で使ってみる、聞いてみるドイツ語、日本にいる何倍もの速さでドイツ語が自分のものになっていくのを感じました。空いた時間や休日は、博物館や美術館、散策などそれぞれ自由にドイツの街を楽しみます。ミュンヘンという、古く美しい建造物や文化が溢れる街の中でドイツ語を学べることに喜びを感じました。

その後の1週間は「自主研修」という、私がこの研修旅行の醍醐味と感じているものです。これは、自分の興味によって研修の計画を立て、1人で旅の手配や研修のための調査をし、1人で旅するというもので、ドイツ語だけでなく、自分自身を鍛えることができます。そして日本語と日本の仲間と離れ、「ドイツ」を一番肌で感じる時だと思えます。旅先で出会った人々と拙いドイツ語で話しながら、私はドイツという国の良さをますます感じました。

最後の1週間はホームステイで、体一杯で愛情を表現してくれるお母さん、いつもさり気なく助けてくれるお父さん、日本の話を目を輝かせて聞いてくる日本好きな弟、いつも笑顔のおばあちゃん、教会のコーラスの練習や近所の集まりに連れて行ってくれたり、本当に家族のように私を暖かく受け入れてくれました。

ドイツ人の多くは英語が話せます。道で困っていると英語で話しかけてくれることもあるし、大概の話なら英語できてしまうかもしれません。でもそこで敢えて、彼らが日々使っている言語で話すということの大切さと喜びを、この旅行で知りました。もちろん、私のドイツ語はまだ不十分で、深い話をするのは苦勞しましたが、それでも私がドイツ語で話せば、一生懸命聞いてくれ、彼らの言語で話しているということで、素直な気持ちが聞ける気がしました。また、「こんにちは」や「ありがとう」などの簡単な挨拶をドイツ語でするだけでも、自分がその一員になれたような嬉しい感覚になりました。その土地の言葉を知ることによって、その土地の風土や文化、人の気持ちに触れられることを感じました。ドイツ語だけでなく、色々な言語を知り、そしてその国のことを知りたと思うようになりました。

結局、私のドイツへの思いはこの1ヶ月では収まらなかったようで、次の夏休み、今度は1人でドイツに行きました。その時、ホストファミリーはもちろん、語学研修の先生や、旅先で知り合った人達は、また私を暖かく迎え入れてくれました。そしてまたいつでも来なさいと言ってくれました。私は、研修旅行で語学の意味と、多くの貴重な体験を共にした仲間、そして第二の故郷を手に入れました。この研修旅行は私の将来にとって、とても大きな意味を持つものだと思います。



語学講習の打ち上げパーティーで

## JTWの授業を受講しよう!! 学内留学



経済学部4年生 まつなが たかひろ  
松 永 孝 弘

まずはじめに皆さんに質問したいのですが、「大学に入学して英語などの外国語を、会話を通してもっと学びたい!」、「せっかくの大学生活だから、クラスの友達だけでなく留学生の友達を作りたい!」と思ったことはありませんか? そのような思いを持っている人は少なくないと思います。ただ、どうすればいいのかわからなかったり、なかなかその一歩を踏み出す勇氣を持てなかったりするのではないのでしょうか? 私はそんな皆さんに、JTWの授業をオススメしたいと思います!

今まで交換留学などに行ったことのない私は、JTWの授業を受けている時、留学先での授業とは、こういった感じなのか、と思いました。私は3年の後期に、“Adjusting to Japan (日本への適応について)”という授業を受講したのですが、それはアメリカ人の先生と約30人の留学生、そして日本人は私を含めて2人から成る授業で、全て英語で行われるものでした。毎週の授業は、毎回3人程度の学生が事前に与えられた題材について、パソコンでまとめた内容を使ってプレゼンテーションを行い、その後みんなで議論するという流れでした。授業の題材は、『お辞儀』・『相槌』・『和』・『先輩後輩』など、日本で生活する上で知っておくべき様々な習慣や概念でした。日本人である私にとって、日本の習慣や概念が外国人の視点から観察され、留学生の率直な疑問や考えを聞くことができ、興味深かったです。時には、私たちからすれば当たり前すぎて全く考えもしないような発見や質問もあり、本当に考えさせられました。また、日本人として授業中よく意見を求められたので、みんなの前で英語を用いて説明する機会も自分にとっては為になった

と思います。

この授業を通して自分にとって最もいい経験になったのは、プレゼンテーションです。私はJTWの授業の他に、たくさんの留学生の前でパソコンを用いて英語でプレゼンテーションをさせてくれる授業を知りません。パソコンも英語も上手でない私は、留学生の友人のサポートを受けなんとかやり遂げることができました。私はまず、英語の資料を精読し内容をまとめ、パソコンに詳しい香港出身の友人のアドバイスを受けながら英語で打ち込んでいきました。その後、アメリカ人の友人に英文をチェックしてもらいながら、3人でそのテーマを議論しました。発表に関しては、英語での質疑応答に四苦八苦しながらもベストを尽くして頑張りました。

JTWの授業には、普通の大学の授業とは一味ちがう興味深い経験や内容が詰まっていると思います。最近就職活動をしている私は、企業の求める人材像として必ずと言っていいほど「人間性」という言葉を耳にします。では、人間性を備えるためには何が必要なのでしょう? 私は経験だと思っています。要するに、やってみないとわからない! そんな一つの経験としてJTWの授業を受けてみるのもいいのではないかと思います。

最後にアドバイスを少しだけ。なかなか勇氣を持っていないという学生はまず、JTWのチューターや日本語会話パートナーを通して留学生の友人を作ることをオススメします。また、英語力に関しては学期初めに行われる授業のオリエンテーションに実際に参加してみて、自分で判断するのが一番いいと思います。

では、皆さんの健闘をお祈りしています!

### JTW CLASS SCHEDULE FOR SPRING SEMESTER 2007 Place: Room 403, 404 International Student Center

	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
Period 2 (10:30-12:00)	Urban Psychology in Asia Prof. Minami Class room is 403	Japan-East Asian Relations Prof. Lee Class room is 403	Linguistic Description Of Japanese Prof. Okazaki Class room is 403	Contemporary Japan and Popular Culture Prof. Nakamura Class room is 403
Period 3 (13:00-14:30)	Introduction to the Contemporary Japanese Politics Prof. Hachiya Class room is 403	Enculturation and Education in Japan Prof. Pollack Class room is 403	Structural Reform of Japanese Economy Prof. Imai Class room is 403	Japanese Life through Tea Ceremony Prof. Cross Class room is 403
	Japan's Labor Market Prof. Imai Class room is 404			Cultural Evolution of Japan Prof. Pollack Class room is 404

19年度前期に開講されるJTWの科目時間割を簡単に掲載しています。詳しいことは国際交流部留学生課留学生交流係 TEL 642-7351にお問い合わせください。



# 医学部空手部紹介



医学部保健学科2年 ひら お ま ゆ こ  
平 尾 真裕子

医学部空手部は、現在男子14人、女子4人、マネージャー2人で活動しています。医学部の体育館で月、水、金の週に3回練習を行っています。練習に毎回来る人、自分のペースに合わせて練習に来る人など人それぞれですが、みんな練習のときは真剣に取り組んでいます。また空手部は上下関係なくみんな仲が良く、本当におもしろくて楽しい部活です。

に行ったりしました。冬には毎年恒例のスキー旅行があり、みんなで楽しんでいます。練習のあとは毎回食事会があるので先輩と後輩との交流が深まる場もあります。このような活動を通して先輩方の楽しさや優しさを感じます。わたしはこの楽しさが部に入るきっかけとなりました。次の新入生も真剣な面や楽しい面をもつこの部活の魅力に興味をもってたくさん入ってくれたらうれしいです。



去年は4月にあった九州山口医学科生空手道大会で優勝、西日本医科学生空手道大会でも個人戦などですばらしい結果を残しました。この結果に満足することなく今年も優勝を目指して練習に取り組んでいます。一人一人が自分の目標を持ち、それに向かってがんばっている姿は練習を見ていてよくわかります。今年こそは西医体での優勝を勝ち取りたいとみんなが思っています。

とにかく楽しい部活なので興味が少しでもあったら見学に来てみてください！大学生活をよりいっそう充実したものにできる部活です!!

こんな真剣な面もありますが、楽しむときはちゃんと楽しむ部活です。新入生歓迎コンパでは初めて会った人たちなのに、すぐになじんでしまう程でした。夏はみんなで熊本や宮崎に行って、バーベキューをしたり花火をしたりいろんなところに観光





## 演劇で遊ぶ。演劇を遊んでみる。

平成12年度文学部卒業 <sup>たか</sup>高 <sup>やま</sup>山 <sup>りき</sup>力 <sup>ぞう</sup>造

どこでもいい、なにもない空間—それを指してわたしは裸の舞台と呼ぼう。ひとりの人間がこのなにもない空間を歩いて横切る、もうひとりの人間がそれを見つめる—演劇行為が成り立つためには、これだけで足りるはずだ。

～ピーター・ブルック著「なにもない空間」より～

僕は現在、九大演劇部のOBで作った「Village 80%」という劇団で創作活動をしている。脚本も書くし、演出もする。もちろん役者として舞台に立つこともある。

それと平行して演劇ワークショップのファシリテーターなるものを行っている。中高生対象の参加者公募型の演劇ワークショップ「Acting!」や、小学校での総合学習の授業としての演劇ワークショップなんかが主な現場だ。

この仕事が作品創作に匹敵するくらい実に面白い。「ワークショップ」って何のお店だ? 「ファシリテーター」ってなにやるんだ? という疑問が出そうなので一応、某 Web 百科事典から引用要約。

【ワークショップ (Workshop) とは、本来作業場や工房を意味する語で、1920年ごろに臨床心理学の一手法として考案されたもの。今日では「体験型の講座」を指すことが多い。ファシリテーターと呼ばれる司会進行役が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するものとして運営されることがポピュラーな方法である。】…わかったような、わからないような説明だけど、要は経験の有無に関わらず、演劇を体験してみようって場で進行役をする仕事だ。

ひとつの出会いが僕の「演劇」へのスタンスを劇的に変えた。

3年前、福岡市文化芸術振興財団が主催する「子ども達に創造の舞台を」プロジェクトの一環として、福岡の地元演劇人を対象として実施された「ファシリテーター養成ワークショップ」に参加したのが始まりだった。東京から招かれた演劇百貨店代表の柏木陽さんがファシリテーターを務めるその現場では、即興演劇

の手法をベースにした誰でも出来るゲームで遊ぶ。まずはひたすら遊ぶ。「だるまさんがころんだ」や「こおりおに」なんて子どもの頃にやった遊びに夢中になる。そういった遊びの中に演劇の本質的なコミュニケーションの面白さが潜んでいたりする。「演じる」は英語で「play」。なるほどね。そうやって演劇ゲームで遊びながら次第に参加者と打ち解けて協力して短いシーンを創ってお互いに見せ合ったり。あっという間に楽しい時間は過ぎていく。

そんな中、根本的な疑問にぶちあたる。

そもそも「演劇」とはなんぞや? って話だ。

脚本があって、役者がそれを憶えて、劇場で観客を前に上演するだけが「演劇」なのだろうか…。

そこで冒頭の引用文である。

僕は「演劇」が何も特別なものを必要としないもっとも身近な芸術だと思うのだ。なにせ二人以上の人間がそこにいれば演劇は成立するのだから。そして生身の人間のコミュニケーションが複雑に絡み合っって舞台空間にドラマを生む。見方を変えれば「演劇」は人間を知るための道具なのかもしれない。

携帯電話やインターネットなど直接顔が見えないコミュニケーションツールが普及したこの時代に、なにもない空間で成立する「演劇」が持つ力を信じて、僕は今「演劇」を楽しんでいる。

生活はぎりぎりだけどね。

お金で買えない価値も、あると思うんだ。



小学校での演劇ワークショップ風景



photo by Yasushi Uda

## ねじれの冬

音楽アーティスト

平成14年度教育学部卒業

ふか  
深 水

あや  
郁

自宅の窓から階下の景色を眺めていると、駐車場に白い車が停まった。そこから降りた、老女が3人、駐車場を囲んでいるフェンスの間から、赤い服を着て両手に白いビニールの買い物袋をぶら下げて縦一列になって出て行くのが見えた。視界の隅に梅の花が白く咲いている。反対の隅では畑のあぜ道に菜の花が咲いている。不思議な取り合わせだった。

この間のライブでもらった花束も同じだった。梅の花と一緒に菜の花が包まれていた。それが薄紫色のチューリップと一緒にあって、見たこともない印象的な花束になっていた。季節の異なる花々が組み合わせられている。ありえないけれど、それはそこに確かに存在していて、魅了されてしまった。

冬の間に、東京、福岡で、群馬県の神楽（獅子舞）と共演した。私はピアノの弾き語りをした。本来の神楽は和太鼓と篠笛で舞うのだから、ピアノと神楽はもちろん、ありえない組み合わせである。

舞手の若山さんとお酒の席で、神楽とピアノを合わせたらどうなるかという話をしたの思い出、東京でのライブにゲスト出演をお願いしたのが、そもそもの始まりである。若山さんは何とお酒を飲みながら話した内容は憶えていなかったけれど、出演を快諾してくれた。そして、東京のライブの前とにかく合わせてみましょう、と太鼓奏者の健ちゃんを伴って、群馬からはるばる福岡まで車に乗ってやって来た。

神楽とピアノで合わせることができるのか、という心配は最初のスタジオでの練習で吹き飛んだ。初めて見る獅子舞の表情の豊かさに、私はすっかり引き込まれた。

若山さんが赤くて堅い木製の獅子頭と、緑色の地に唐草模様の布を被って動き始めると、もう「獅子」になっていた。顎が上下に動いてカッカカッと大きな音をさせる。両耳もクルンクルン回る。そうすると動かない目までがギラギラと眼光を発しているように見える。舞が盛り上がり、若山さんが獅子頭を上へ向かって突き上げると、獅子の身体全体が上方にぐ～

んと長く伸びて、倍以上に大きくなったように見える。その格好で上からカッカカッとやられると、木の塊と布の中に人間が入っていると分かっているのに、ドキッとして怖くなるほどだった。反対に若山さんが床に這いつくばると、獅子もしぼむ。猫が丸くなってまどろんでいるような風情である。モノを言わない獅子が物語を語る。こうして舞を観ていたが、しばらくして、健ちゃんの太鼓の音の隙間にピアノで和音を重ねてみる。獅子はピアノの真横にまでやって来て鍵盤の端っこを叩いたかと思うと、向こう側の見えないところでうずくまり、大きく弧を描いて走り回っていたと思ったらまたピアノの横に来て顎を鳴らしている。いつの間にか健ちゃんは太鼓を叩くのを止めて、床に寝そべって音を聴いたり舞を観たり。ピアノも遊ぶ。獅子も遊ぶ。数十分間があつという間に経過する。ありえない組み合わせのはずが、すんなり馴染んでしまった。

音楽と踊りというところで既に、直接には交わらない「ねじれの関係」になっていると思うのだけれど、ピアノと獅子舞はその中でも随分と異色な組み合わせだから、「ねじれにねじれた関係」だったかもしれない。けれども獅子がやって来て、どこにも無いパフォーマンスが生まれた。街中の広場で、ライブハウスで、他の楽器の共演者たちとも一緒になって、人々を喜ばせた。

先祖同士を辿っていても恐らく出会ったことはなかったかもしれない、梅の花と菜の花の妙なるねじれの関係、ピアノで神楽と共演した今年の冬のことを心に留めておこう。



音のする魚  
～深水 郁・ふかみあや日記～  
<http://fukamiaya.jugem.jp/>

photo by mari



# Let's Debate in Our Life!

## ～ディベートのすすめ～

総合理工学府修士課程1年 なか ざと ひろ し 中 里 博 史

みなさんは「ディベート」と聞いて何を思い浮かべますか？

最近では中学・高校の授業などでもディベートをする機会が増えてきたようですが、「難しかった」または「大変だった」という体験者の声をよく耳にします。実は私自身も、当初はそのようなイメージを少なからず持っていました。しかし、私は学部時代に、これから紹介する「パラメンタリー・ディベート（以下、PD）」というものに出会ってその気持ちが一変しました。「ディベートは面白い！」そして「ディベートを学んでみたい！」と思うようになったのです。

PDとは英国議会（Parliament）をモチーフとした教育ディベート（Debate）、すなわち「あるテーマについて、自分の主張とは関係なく賛成側と反対側にわかれて第三者を説得するゲーム」をさします。即典型ディベートであることと説得性を重視するところに大きな特徴があります。日本には1990年代に導入されましたが、当初の活動人口は非常に少なく、一部の大学のESS（English Speaking Society）で行われているのみでした。しかしながらここ10数年の間に国際化の波を受け、状況が一変しました。現在では関東・関西地方の大学を中心にESSやディベートサークルなどで活発な活動が行われており、競技ディベートとしての大会も数多く開催されています。また日本人を対象としたPDによる教育的効果も最近の研究により明らかになってきており、教育現場やビジネスの場でもPDを通じたコミュニケーション・トレーニングが数多く行われるようになってきました。

では、現在大きな注目を浴びているPDの魅力とは一体何なのでしょう。私は以下の3つをPDの魅力としてみなさんに紹介したいと思います。1つ目は、「テーマの身近さ」、2つ目は「議論の楽しさ」、3つ目は「練習で身につくスキル」についてです。以下で具体的に見ていきましょう。

1つ目の魅力は「テーマの身近さ」です。PDは一般の方々を聴衆として想定しているため、扱うテーマは新聞やテレビで話題となっていることがほとんどで

す。そのため、誰しもテーマに関してある程度の知識を持っており、いざディベートをするときに多大な準備時間や深い専門知識を必要としません。例えば「地下鉄七隈線を博多駅まで延長すべきだ」というテーマが与えられた場合を考えてみてください。普段福岡で生活しているみなさんなら、「地下鉄七隈線はどこどこを結んで走っているのか」や「博多駅まで延長すればどのように利用者にとって便利になるのか」、「でも延長のためには莫大な費用が必要である」などという話がすぐに思い浮かぶと思います。このようにPDは扱うテーマの身近さゆえに、非常に取り組みやすいものなのです。

さて、2つ目の魅力は「議論の楽しさ」です。PDは説得性を重視するので、ときにはユーモアを交えて議論をすることがあります。これがとても面白いのです。上手なディベーターは適度にユーモアを交えて話すので、聞いている側を飽きさせません。またPDでは「～は××すべきだ」というような政策に関するテーマ以外にも、「AはBよりも～だ」というような価値観に関するテーマ（例：「独身生活は結婚生活より幸せだ」、「彼氏・彼女がいるよりもペットを飼った方が良い」など）についても話し合うことがあり、これもPDで楽しい議論ができる要素になっています。

最後の3つ目は、「練習で身につくスキル」につい



昨年の春におこなったシンガポールでのディベート研修の様子。今年の春は後輩5人が参加しました。

です。これについては大きく分けて「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」「時事知識」, 「英語力」の4つに分類されます。

まず、最近よく耳にする「コミュニケーション能力」と「プレゼンテーション能力」についてです。ディベートでは何よりもまず相手との「円滑なコミュニケーション」が必須であり、そのためには相手の主張をじっくりと「聴く」必要があります。「聴く」という行為無しにはただただ独りよがりの主張をするのみで、実りある議論はとてできません。例えば「朝食はしっかりと食べるべきだ」というテーマが与えられたとしましょう。反対側の「忙しい朝に朝食を作って食べる時間がもったいない」という主張に対し、賛成側の主張が「健康のために」の一点張りでは議論は進展しません。この場合、賛成側は的確に反対側の主張を捉えたうえで、「たとえ忙しい朝に朝食を作って食べる時間がなくても、コンビニなどで手軽に朝食を買うことができるので、反対側の主張する時間が無いという議論は重要ではありません。一方で朝食を食べない生活を続けていた場合、将来的に健康を害する確率がとても高くなってしまふことがわかっています。ですからやはり朝食はしっかりと食べるべきなのです。」などという主張を行うことが効果的です。このようにPDでは、日々の練習を積み重ねることで、相手の主張を聴き的確に理解する「コミュニケーション能力」、そして、自分たちの主張を伝える「プレゼンテーション能力」を磨くことができます。

次に「時事知識」についてです。PDの試合では様々な時事テーマを扱います。言い換えれば時事問題に関する抜き打ちテストが毎回あるようなものなのです。ですからディベーターはどのようなテーマが与えられても即座に対応できるように普段から新聞や雑誌を読んで情報収集を行います。様々な事象に対して、「何が?」「いつ?」「どこで?」「なぜ?」起こったのか、そして「どのような議論がなされているのか?」といった問題意識を普段から持つことが大切なのです。PDの活動では、このようにして幅広いテーマに関する「時事知識」を養います。

最後は「英語力」についてです。これは英語でPDの活動を行った場合に得られるスキルです。ESSでPDを行っている学生は高度な英語力が身につきます。なぜならばPDでは、各ディベーターは与えられたテーマに関してある一定の時間(立論には7分間、まとめのスピーチには4分間など)、自らの主張を英語で

繰り返すからです。私は大学入学当初は全くと言っていいほど英語が話せませんでした。しかし、PDでの活動を続けていくうちに、ある日自分が意外にも思い通りに英語を話せていることに気が付きました。PDの活動を通し英語でのスピーチ練習を積み重ねることで、何気ない日常会話であれば思い通りのコミュニケーションをとれるまでに成長することが出来たのです。

PDの活動は、日本人学生だけでなく、海外のディベーターと交流する機会にも恵まれています。そこでは常に現状より高いレベルの英語力が求められています。私自身は現役時代に多くの国内/国外の素晴らしい仲間達とともに日々切磋琢磨する環境がありました。このことも、自らの英語力を磨く上で非常に重要なことを今では強く実感しています。

さて、以上でパラメンタリー・ディベートとその魅力について、私の思うところを紙面の許す限り述べていただきました。伝えきれなかったこともまだまだたくさんありますが、そのことに関しては、興味を持ってくださった方にあらためてお話できれば幸いです。どうぞそのような方は(zatopeck21@hotmail.com)までお気軽にご連絡ください。また写真にもありますように、私の所属していた九州大学ESSでは、本文で述べたパラメンタリー・ディベートの活動やそれに関連したイベントを多数開催しております。今後はぜひそのような場でみなさんにお会いすることも楽しみにしております。それでは長文のご清覧、ありがとうございました。

ESS ホームページ

<http://qess.fc2web.com/frame.html>



昨年10月に開催した「パラメンタリーディベートセミナー in 九州2006」の様子。今年は6月に「日米交換ディベートを開催予定!



## Find Your Future プロジェクトを通して 学んだこと

歯学部5年 かわ ばた しん ご  
河 端 信 吾

大学生の皆さんは、現時点で大学を卒業した後の進路を明確にイメージできるでしょうか？ できている人はどうして具体的にイメージできていて、イメージできていない人はどうして思い描けていないのでしょうか？

私は、将来の進路のために主体的に考え、行動するサポートを行なう「Find Your Future」というプロジェクトに参加し、多くの素晴らしい体験をしました。ここで得られた経験から学んだ様々なことは、これからの私が生きていく中で本当に大きな力になると確信しています。そこで、私がこのプロジェクトを通して体験したこと、学んだことを紹介したいと思います。

その前にまず、自分のことについて述べたいと思います。

私は、直接的に人の役に立てる職業に就きたいという思いがありました。大学では歯学部に入學し、講義や実習を通して学んで、自分のやりたい本質に合った将来をイメージすることができるようになってきました。しかし、このまま歯科医になるためだけの勉強をしてもいいのだろうか、学生のうちしかできないもっと他の経験もやりたいという思いから、3年のときにBLS九州というビジネス志向の学生団体に所属しました。その中で、論理的思考を学ぶロジカルシンキング分科会という学生主体の勉強会のチーフを2年間務めるなど忙しいながら充実した時間を過ごすことができました。そんな中、2006年度のBLS九州での活動計画の中で、学生の将来に対する意識向上のサポートを行なうプロジェクトの提案がありました。提案者であるシステム情報科学府博士3年の中村大輔さん（現九大准助教）によると、『大学から先の進路に関しては、自分の人生に大きく関わるにもかかわらず、多くの学生が進路決定時期になってようやく活動し始めるという傾向にある。進路を決定する十分な判断材料がないまま焦って決断するのではなく、自分の納得できる進路へ進むために、できるだけ早い段階（学部1，2年生）から自分のキャリアに関する意識を高く持って行動してほしい』とのことでした。私は、この提案

に非常に共感しました。周りの人が具体的に将来について考える手助けができればと思うのと同時に、自分の将来を見つめる上でも非常に役立つだろうと思っから、このプロジェクトに関わっていくことにしました。

活動計画として交流イベントを掲げていましたが、具体的なイベント内容を企画するには思った以上に時間を要しました。プロジェクトのメインの対象者である学部1，2年生に対してどのような企画が最も効果的か、何度もミーティングを重ねてメンバーで深く検討し、練り上げていきました。この一つの目標に向かって企画を創り上げていく作業は、あらゆる作業にも適用できる有意義な経験となりました。最終的に決まった企画は、進路を決定した魅力的な先輩達と学部1，2年生との交流イベントでした。テーマは「将来に繋がる学生生活」で、小グループに分かれて互いに思いを語り合うスタイルとしました。配慮した点は、学部の枠にとらわれることなく“自分のやりたいことを見つけて”就職先を決定した先輩方を招いたことです。理系から文系職、文系から理系職に内定をもらった先輩方の話は、視野を広げてくれる良いきっかけとなり、イベント後の参加者のアンケートでは、参加者全員からこれからの学生生活に対する気持ちがプラスに変化したと回答をもらいました。一生懸命に企画したことが報われた思いと、自分自身がこのイベントで将来への意識が高まったことが、非常に嬉しいことでした。

その後も、第2，第3回と交流イベントを行ないました。第2回では「何のために大学へ入ったの？」というテーマのイベントを行い、大学に来た理由を再確認する場を提供し、第3回では「大学を超えたアツイネットワークを創ろう」というテーマで、九大内だけでなく、他大学で面白い活動を行っている人達との交流会を開催しました。参加してくれた学生からは「学生生活でやりたいことが明確になった」、「腹割って話すことで道が開けるんだと思う」といった意見をもらい、自分がやろうとしたこと、伝えたかったことが参加者に響いたことが何よりも嬉しいことでした。しか

し、その一方で参加者の人数は私達が目標にするほど集まりませんでした。これは、イベントのプロモーション活動が十分にできていなかったことが原因でした。イベント前に、積極的にビラを配って走り回ったのに、多くの学生は興味を示してくれず、ある程度覚悟できていたものの、やはりショックでした。イベントの中身だけでなく、その前の段階の広報戦略を立てることの重要性を身を持って学びました。

夏休み期間にこれまでの反省点を活かし、魅力的なゲストを招聘し、イベント前の早い段階から広報を流すことを計画しました。イベントテーマは、プロジェクトのコアとも言える「思いを行動に変える」とし、ゲストには、九大OGである第1回科学ジャーナリスト大賞を受賞した毎日新聞社記者の元村有希子氏と、テレビ西日本アナウンサーの高山梨香氏を招聘することとしました。このゲストへの交渉は、別のメンバーが担当したのですが、プロジェクトにかける熱い思いをぶつけることで2人とも来てもらえることになりました。

課題であった広報は、イベント前の早い段階から学生の目に付くような場所にポスターを掲示し、ビラの設置なども行ないました。刷り上がったポスターを夜中に掲示板に貼りに行ったのは、面白い経験でした(笑)また、学部1年の講義を担当している先生に講義の後にビラを配布してもらうよう依頼もしました。正直、協力してもらえるか不安だったのですが、こちらですんなりプロジェクトの内容を認めていただき、講義後に学生に配布してもらうことができました。

企画、ゲスト交渉、広報など様々なタスクをこなした結果、イベントは「Take Action」と名付け、パネルディスカッションとグループワークの2部構成で行ないました。「思いを行動につなげる」のテーマのもとに、前半ではゲスト2名の経験談を聞き、後半のグ



「Take Action」グループワークの風景

ループワークではゲストも交えて参加者全員が自分の思いを実現するために明日行動することを掲げ、各人宣言して幕を閉じました。参加者は、広報の甲斐もあり60名を越え、時間を応ごとに盛り上がっていき、イベント後には、様々な人からありがとう、素晴らしいイベントだったよと言ってもらいました。その時の興奮は今でも鮮明に甦ります。人に喜んでもらうことがこれほどまでに嬉しいことだということを知ることができました。そして、これから社会に出ても、人に喜んでもらえるような人間になりたい、改めてそう強く思えました。

交流イベント以外にも、バイオ実験教室体験の紹介や、理系・中央・六本松図書館への「生き方、考え方を変えるきっかけとなった本」の設置など学生の意識を高めるきっかけとなる活動を行いました。

このように、1年間、本当に試行錯誤を繰り返し、様々なことを行ないました。学業と平行してプロジェクトを進めるには困難もありました。でも、それができたのはメンバーが皆熱意を持って一つの目標に向かい、お互いが信頼し、認め合ってきたからこそ達成できたと思います。このプロジェクトを通してそんなメンバーと知り合えたことも本当に私の一生の財産となりました。『いろんなことに興味を持ち、面白そうと思ったら自分から積極的に行動する。』プロジェクトを通して周りの人に自分が一番伝えたかったことは、実は伝えようと努力する過程で逆に自分が一番教えられた気がします。このプロジェクトで学んだことをこれからの人生の糧とし、将来へさらに前向きに行動していこうと思います。



図書コーナーの写真 (理系図書館)



# 英語を何とかしたい皆さんへ

— 英語学習に関する誤解を解く —

すず き ゆう ぶん  
鈴 木 右 文

## 【英語を何とかしたい!】

九大をはじめ多くの大学で1学年全員に英語検定試験の受験を求めるなど、ますます英語力が求められている時代ですが、今この段落を読み始めた方は、そんなことを強調されるまでもなく、英語を何とかしたいと思っているのだと思います。

九大を巣立つまで早い人で4年、その間に九大が提供できることをお知らせしておきます。人によっては英語の母語話者の友人がいるなど恵まれた環境にあるでしょうが、ここではそうではない普通の九大生を念頭に置いてお話しします。



## 【誤解を解く】

英語学習に関する誤解をまず解いておきましょう。

### 1 「中高でこんなにしたのに」は誤解

中高6年もしているからもう結構なレベルになっていると思っている人がいると思います。でも例えば国際英語検定試験のTOEICで海外赴任実用最低レベルが730点のところ、九大1年生は平均500点弱です。まだまだこれから伸ばさねばなりません。

またTOEICで日本人は他のアジアの人々よりもスコアが低いのです。日本では多くの層の方々が受験するからということもありますが、やはり取り組みの甘さがあると思います。

これには理由があります。英語教育の世界で、英語の実用レベル到達には2000時間の英語そのものを使った活動(教師による日本語での解説などは含まない)が必要と言われてはいますが、公立の中高の授業ではせいぜい500時間程度しかカバーしていないのです。大

学に入学した今からが重要だということです。

### 2 聴解より読解ができない

では何を大学で勉強するかということですが、授業でのアンケートから、中高では読解中心の授業だったので大学では聴解や会話がやりたいという人が多いことがわかります。しかし、検定試験ではむしろ読解の方ができないのです。また読めない英語は聞き取りもできないので、読解力を高めることは絶対必要です。読解訓練をやめ英会話に専念するのではかえって遠回りです。従って、これまでの読解の勉強は継続しなくてはなりません。それに加えて、作文なり聴解なりの不足した技能の訓練を実施することが肝要です。

### 3 時間があればできるは通用しない

しかし各技能の訓練も、スピードを重視する必要があります。国際英語検定試験では問題を解き終わらず、時間があれば解けたと悔しがる人も多いですが、速度も能力のうちなのです。

また短期間の学習を長期にわたって行うより、短期集中した方が力がつきます。授業期間中には授業を補う活動で集中度を高め、休業中には何かの教材に集中的に取り組むのがいいでしょう。

### 4 会話はカンタンではない!

会話は聞く・話すの複合技能を要し、様々な知識を総動員して高速処理する高度な技能です。とても新聞広告等にあるように楽しんで身につくものではありません。単一の技能の力が足りないまま英会話に専心したところで効果が限定的なのはもうおわかりいただけだと思います。

### 【処方箋の例】

結局、これまでせっかく続けてきた読解、文法、作文等は継続しながら、さらに進んで聴解、発音やリズムの勉強、単語や表現の増加等をはかり、徐々に対話、議論等の勉強も始めたらいと思います。決して焦らぬこと。単一の技能のキャッチボールが不得手なのに複合力が問われる試合に出たいと言っても仕方がないので(自分は空地で子供がするスポンジボールの遊びだけに留まりたいのだと言うなら別ですが)。

## 1 言語文化基礎科目

まずは正規の授業に取り組んでください。1年前期は英語学習の総合的な基盤を作る英語Ⅰとライティング中心の英語ⅡA、1年後期はライティング中心の英語ⅢAと読解・聴解・文法の英語ⅡB、2年次には原則として読解・聴解・文法の英語ⅢBと、会話を含めた様々な内容から選択できる英語Ⅳがあります。基礎から総合技能へという流れに注目してください。英語ⅡB・ⅢBは現在「ぎゅっとe」というウェブ教材を使用した徹底演習になっています。

## 2 言語文化自由選択科目

3年次以降、正規の英語の必修授業はなくなります。言語文化研究院箱崎分室の授業をお勧めします。英語会話・英語プレゼンテーション・英語リスニング・英語ライティング・英語リーディング・英語テストテイキングなどの授業があります。

## 3 検定試験による単位認定

TOEICかTOEFLのスコアで英語ⅡB・ⅢBの単位が免除になります。詳しくは掲示等を御覧ください。

## 4 少人数セミナー

1年生の間にディベートや対話演習を含めた科目がある年がありますから利用してください。

## 5 3d-ies

私が前期の少人数セミナー「英国に行こう!」と後期の英語Ⅳで予定している英語の文字チャットによる対話演習をどうぞ御利用ください。昨年11月末「英語でしゃべらナイト」で取り上げられたシステムです。

(<http://www.3d-ies.com> 参照)



## 6 ネットアカデミー2

3月に学内専用英語学習ソフトのネットアカデミーが学外からの利用もできるようになりました。読解と聴解のドリル的訓練ですが、華々しいの試合の活躍の裏には地道なトレーニングがあります。ぜひ利用して

ください。1年前期と夏休みに利用し、1年後期の英語ⅡBにつなげるのも賢い利用方法だと思います。

<http://gogaku.kyushu-u.ac.jp>

## 7 リスニングCD-ROM

入学時に配布された「外国語のすすめ」の冊子にもありますが、大学生向けに開発されたリスニング教材です。無償貸与しますので、本館6階2号鈴木右文研究室前においでください。貸出期間は半年です。やや難しいですが、今できるものを聞くのではなく、教材内のヒントを頼りに難しいものにトライしてください。

## 8 JTW

英語で日本に関する講義を行うコースに海外からの短期留学生が集まるのがJTWです。これのティーチングアシスタントとなって留学生のお世話を英語でしませんか。詳細は国際交流室のHPを御覧ください。

## 9 海外英語研修

九大の公式行事ではありませんが、十年以上の伝統があるケンブリッジ大学英語研修があります。今夏の参加者は既に選抜済みですが、来年夏の方はこの4月末から募集を開始します。下記HPを御覧ください。

<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/cambridge.htm>  
 出発8ヶ月前から事前研修で各種学習に取り組みます。



## 10 交換留学

九大には1年間の短期留学の制度があります。九大にいつもどおりの授業料を支払うことで現地の大学で学べます。その枠に合格するにはTOEFL-PBT550点レベルの英語力が必要です。ぜひ頑張ってください。

## 11 単語

上記の「ネットアカデミー2」に、ケイタイで行う単語演習プログラムが含まれています。1万2千語あります。ぜひ単語を増やしてください。

(言語文化研究院)

# 〈学生による授業評価〉をめぐって

— いじめ・問題と課題・熱意と動機 —

高等教育開発推進センター

学生が授業を評価する者になる〈学生による授業評価〉についての話ですが、高校まで慣れ親しんできた学び(学習)と大学で遭遇する学び(学修)とのちがいについて考えるきっかけになれば何よりです。

九州大学全学教育では、実験科目を除くすべての授業が、毎学期、学生による評価の対象になります。図や表で示す〈学生による授業評価〉の結果の公表は、Radix増刊号に譲り、ここでは、〈学生による授業評価〉をめぐり、■カード問題、■カード懸案、■カード課題について考えます。

以下において、■・■・■を、問題(ルール)・懸案(マナー)・課題(モラル)と、大まかに対応させて用います。

- カードにかかわる 問題 と ルール
- カードにかかわる 懸案 と マナー
- カードにかかわる 課題 と モラル

高校までの学校教育は、学習指導、生徒指導、進路指導などと指導を旨とする教育です。指導をうける生徒としての学びは、ルールを習って学ぶ学習になります。ルールは校則のような決まりごとで、学びとは関係がないと考えるかもしれませんが、教科の学習で「こうなっている」と教わる文法や公式なども、予め「こうなっている」のですから、ルールです。ルールの当てはめを工夫して答のある問題を解くのが学習だというわけです。ルールがない場合、たとえば、関ヶ原の戦いについての知識を「安土桃山時代の慶長5年(西暦1600年)に美濃国不破郡関ヶ原で戦われた戦い」と記憶して学習します。ルールを記憶して学習することもあります。正答は「こうなっている」ということで問題が出題される入試の結果が評価されざるをえない学校教育は、ルール学習と記憶学習の成果をあげることを目指しています。

大学でもルール学習と記憶学習は不可欠です。が、「なぜ、こうなっている」のかと、「なぜ」が加わることによって、一斉に習って学ぶルール学習と記憶学習

が、それぞれに修めて学ぶ学修へと変化します。

学問の府でも研究の拠点でもある大学の教育においては、知のモラルに立ち戻って物事を探究しようとする力が働いています。知のモラルは、定義づけを拒むくらいに奥深いのですが、あえて説明を試みると、「なぜ」と問うときの私たちを支えている何かです。たとえば、私たちが物事を動かそうと舞台にあがっているときに頼みとするのがルールなら、舞台の上がどうであれ、舞台を支えているのが知のモラルなのかもしれません。知のモラルは、それについて語ると「~している何か」とか「~かもしれない」となっています。『そういえば、あの時の講義で聞いたのはこのことかもしれない』と思うことがあります。最近、そういう気づきが増えてきましたねえ』と語る卒業生が育んでいる何かが知のモラルかもしれません。

知のモラルには、高・低、上・下、優・劣はなく、諭えるなら、濃・淡、深・浅があると言える(かもしれません)。巷のモラルには、高い人間性とか、よい社会性とか、優れた国際性とかがあります。知のモラルには程度が目盛ってある物差しは通用しない(かもしれません)。このように、頼りない説明を繰り返しているのは、知のモラルにはルールのように頼りになる「こうなっている」がないからだと考えます。もっとも、九大の学生の多くは、知のモラルを察知する感性を持ちこたえて大学にたどり着いていると知り、安堵を覚えることもしばしばです。

■カード問題とは、一発退場のように、承知・不承知にかかわらず(どのような解法をたどるにしても)1つの正答(最終判断)というルールがある問題のことです。

■カード懸案とは、警告に対して、それぞれに「やむをえず」という言い分があり、おしなべての解決が難しい問題です。無理やり解決すると、見落としたあれこれ明らかになるので、マナーとして、さまざまな事柄を斟酌したうえで、その時々のお答えを出すことになります。

■カード課題については、大学での学修を通して体験的に確かめることとなります。小学校のときから取り組んでいる学習課題は、学修課題でなく学習課題ですから、目当てや目標といったルール（「こうなっている」）の当てはめに見合う取り組み方やまとめ方があります。過程や結論にルールが当てはまらないなら「よくできました」とならないのが学習課題です。正答や誤答のある問題とちがひ、取りくみ続けることに意義が見いだされるのが課題です。人類が誕生したときから先達が後世に智慧の継承を試み続けてきた教育は、まさに課題です。

しかし、世の中には教育問題という言い方があります。たとえば、二次曲線と直線で囲まれた部分の面積を算出する場合のように、答えを出す手立て（解決策）のある活動に限るなら教育は問題解決を図る活動になります。学力低下は、低下を向上に転換する解決策があると考えたときには教育問題になりますが、ゆとり教育がもたらすのは人それぞれの何かであって正答ではないと考えると、それを妨げるあれこれはあっても解決策はなくなるので、問題にはなりえないわけです。

知のモラルの何であるかについて掘り起こす伝統を培ってきた九州大学には、教育において、問題と課題とを混同しない賢明さがあります。九州大学の全学教育での〈学生による授業評価〉は、教育問題を解決するためでなく、教育課題への取り組みとして実施されています。

## ■ 憤りと恐れ、そして、いじめ

この■カードについての文章は、学生を非難しているかのように伝わるかもしれませんが、しかし、学修の体験を通して非難と批判の区別がつくようになると、どのようなもの言いであっても、それと距離をとって考えられるようになります。

授業評価は授業についての評価ですが、授業担当者（教師）のパーソナリティと授業を切り離すのは存外に難しいことでした。学生のなかには、授業のことはそっちのけで、教師のパーソナリティを評価している者がいます。記述回答の欄に『人間の資格がない』とか『人間をやめろ』とか『死ね』とか書いてあることがあります。これほどの記述は3万枚ほどの評価用紙のうちの数枚ですが、それだけに、手元に届いた担当授業の評価用紙にこのような記述を見た教師のショッ

クは相当なものです。自分がそう書かれたことがショックでなく、そう書く学生がいることがショックなのです。

同僚教師は、そう書いた学生への憤りをあらわにして、そんな学生がいる授業は担当したくないと言えます。しかし、ショックを受けた当の教師は、講義室で対面した学生のなかの誰かがそのように書いたのですから、おのずと学生たちの顔を思い浮かべます。『死ね』と書いていない学生まで「もしかして、でも、そんなはずはない」と疑わざるをえない自分に居たたまれなくなります。他者に憤るといふのと自分に居たたまれないというのは、次元の異なることです。

許しがたい言動であっても、その言動の主が特定できる場合と特定できない（正体不明の）場合とで、こうむるダメージは異なります。言動の主が特定できると、憤ることができます。言動の主を拳をふりあげて憤ったり、友人の相槌に加勢をえて憤ったり、相手がない所で涙ながらに憤ったりします。私たちは、四六時中、特定の誰かのことを念頭においておくことはできませんから、憤りには休憩があります。

ところが、匿名でなされる授業評価の記述回答のように、許しがたい言動の主が正体不明の場合に生じるのは憤りでなく恐れです。恐れは、向ける相手も、はねかえってくる反応もないので、そのコントロールが難しく、恐れっぱなしになります。恐れは、それを無視して堪えようとするエネルギーが切れると、私たちをのっぴきならない状態に追ひ込みます。憤りは、相手次第で、奮い立ちや萎えへと変化しますが、恐れは、恐れのまま、ただただ苛まれるのです。

昨今、いじめが社会問題になっています。憤りをもたらしいじめなら解決策がありえますが、恐れをもたらしいじめは解決策を適用する対象が正体不明です。一人の教師に『人間の資格がない』『人間をやめろ』『死ね』などと書くのは人としてあるまじき行為だからやめるべきだと言うのは、問題の解決を目指しているもので、ルール学習の範疇です。九大の学生ともあろう者にあるまじき行為だと憤るのは、ルールの適用範囲を狭めており、指導に他ならなくなります。ルールと指導が一緒になると、管理しようとする力は強くなるのですが、知のモラルからは一挙に遠ざかってしまうように思えます。

授業中であっても、「なぜ」と問いを起こして、知のモラルがかかわる話になると、机上の空論だと指摘する学生がいます。この指摘はルール学習に馴染んで

きた者の受けとめ方として合理的な判断です。ですから、ルール学習の助けを借りて、『死ね』と書くのは■カードです。しかし、ルールが、たまたまの適用でえこひいきにならないように、整合性を保とうとすると、『死ね』以外にも■カードとなる記述回答があります。そうすると、ルールを周知徹底するために、どのような記述回答が■カードになるかを例示しようとなります。そして、『存在そのものが罪悪です』は■カードだけど『タレントの〇〇に似ているのは、やめてほしい』は■カードでないなどと、ルールの検討は際限なく続き、しまいには、スカート丈のルールを膝上何センチにするかのような話し合いに陥ります。学問の府としての大学では、〈学生による授業評価〉には評価者である学生それぞれが、教わってとりこまれているルールや掘り起こしてたどりついている知のモラルが反映されると考えています。ですから、〈学生による授業評価〉の実施目的としては、教師の評価でなく学生の授業の受けとめ方について知ることのほうに重きを置いているのです。

社会の関心事になっている、いじめに戻って、憤りと恐れについて考えてみます。恐れを絶とうとして命を絶ってしまういじめの場合は、仲間であるならいじめめるはずがないし、また、いじめられていると思うこともあるが一緒に遊ぶこともある仲間でありたいし、周囲の大勢が気づいて注意しないのはいじめに値しないからなのかもしれないし、といったことが重なり、いじている者の正体が不明です。正体不明のいじめは、先生や親に説明するのが容易でないということもあります。そうすると、恐れが生じてきます。恐れに苛まれて命を絶つことになった子の親は、子に恐れをもたらしたいじめが誰のどんないじめであったかを特定しないと、憤りを向けるすべがありません。と、いじめを解釈しただけでは、相変わらず机上の空論だという謗りを受けてもしかたありませんが、「なぜ」と問いを起して物事を学修するなら、その後の日常生活や対人関係は変化すると思えるのです。

## ■ 評価錯誤

人が人を評価することに妥当性を保証するこれこそという方法はありません。しかし、神経質な人だとか優しい人だという言い方が通用している世間では、人が人を評価できていると思っています。この神経質とか優しいとか、人にくっつけられる形容が厄介なのです。

たとえば、G君のことを、Aさんは細かいことまで気にして神経質な人だと認知し、Bさんは細やかな気配りができる繊細な人だと認知することがあります。G君が神経質だったり繊細だったりします。授業評価でも、教師が同じ授業を履修していた学生から『優しい』と言われたり、『えげつない』と言われたりします。ということは、人が人を評価する場合は、評価する側が用いている物差しが明らかになるということです。AさんがG君に相性の悪さを感じており、BさんがG君に好意をもっているなら、G君が神経質な人になったり、気配りのできる人になったりします。

モノの属性を評価(計測)する場合、たとえば、液体の温度を計測するときには、同じ温度計を用いるので、液体Aと液体Bの温度がちがうと言えるのですが、学生が教師・授業を評価する場合は、同じ教師・授業を異なった物差しを用いている学生が評価することになります。教師・授業でなく、学生の物差し、授業を捉える眼差しが明らかになります。

前述したように、九州大学の全学教育の〈学生による授業評価〉は、教師を評価するためでなく、学生が授業をどのように認知しているかを知ろうとして実施されています。それでは、問題のある教師の授業が改善されることにはならないではないかという異議が生じます。この異議が問題となるのは、授業でなく教師に問題があると見なしており、授業評価の結果が、授業改善の手がかりでなく教師改善の言いがかりになる場合です。〈学生による授業評価〉が、溜飲を下げるためのものにとどまっています。溜飲が下がると気持ちやすくなるのは、不平や不満が解消するからです。〈学生による授業評価〉は、不平や不満を解消する目的で実施しているのではなく、学生が授業をどのように受けとめているかを知って、知った限りにおいて授業のあり方を、教師それぞれが知のモラルに踏みとどまって模索する機会を、学生が、提供しているのです。

とはいっても、溜飲を下げないことには気持ちが治まらない学生がいます。喩えをひとつ。社会から犯罪のようなルール違反が少なくなるのは望ましいことで、そうすると社会の不安は減少します。だからといって、社会が智恵として培ってきた知のモラルのような質が変化するわけではありません。問題を解決するためにルールを適用することと、課題に取り組むことによって知のモラルを探究することは、同時には実現しません。私たちそれぞれが、その都度、どちらを選択する

ことによって両者の間を往来するのはルールでもモラルでもなく、マナー（流儀）にかかわります。

## ■ 熱意と動機

〈学生による授業評価〉では、学生の協力をえて、数多くのデータが収集されます。そうすると、常識に対する「なぜ」が見えてきたりします。

授業に無欠席で、かつ、自分が努力をしていると感じている（真面目な）学生たちと、欠席回数が多く自分は努力をしていないと感じている（不真面目な）学生たちの教師・授業に対する評価が同じ数値になるというデータをえて、〈学生による授業評価〉がスタートしました。しかし、授業の予習・復習に割く時間がなくなって、よい授業とは分かり易い（その場で理解できる）授業だという捉え方が広まったせいでしょうか、学生が授業評価で用いる物差し（眼差し）が変化してきているようです。その変化を捉えようということで、18年度から評価項目を改訂しました。

16年度と17年度の授業評価で明らかになった世間一般の常識と異なる点もあります。たとえば、学生は教師に教育熱意を見いだす授業を積極的に評価するにちがないという常識は、九大の低年次学生にはすんなりとは当てはまらなかったのです。教師が教育熱意をもっていると見なされた授業の積極評価は相対的に低くなりました。「なぜ」なのか。常識は何を見落としているのだろうと考えることになりました。大学の授業評価でないなら常識にこだわって、質問の仕方を変えようということもあるのでしょう。そうすると、熱意についての項目だけでなく、他の項目も変えなくては、評価が指導になってしまうと、大学では考えます。また、授業評価の結果が、ことごとく常識を裏づけるなら、わざわざ授業評価をする必要はないと大学では考えます。

全体として、教育熱意のある教師の授業が積極的に評価されないのは「なぜ」かについて、データはどう説明しているのだろうと、データを見直しました。すると、積極的に評価されている授業は、学生が授業において学者・研究者との出会いがあったとしている授業です。教師に学ぶ姿を見いだす学生は、自らの学ぶ姿勢（自己努力）も評価しています。教える教師に教わろうとしている学生の目には、授業を通して、教師が学んでいる姿が映らないのかもしれませんが。自己努力のある学生は、調べる姿勢を培ったことと授業に

双方向性があったことを評価しています。したがって、九大の学生が示唆しているよい全学教育科目の授業とは、『学生が自ら調べてみようとなるくらいに勉学への動機づけが高まった授業であり、こうした授業では授業担当者が学者・研究者としての学ぶ姿勢を披露しており、この姿勢が学びを競うといった双方向性をもたらしている授業』となります。この解釈（まとめ）は常識をくつがえすものではありませんが、ばらばらに言われている常識を組み合わせる手がかりが、〈学生による授業評価〉から与えられたこととなります。もしかすると、教育熱意こそ授業改善の原動力であるという分かり易い常識が、教師が学問・研究において日々学んでいる姿勢を今時の学生が感受するはずがないという錯誤と相俟って、その他の賢明な常識を覆い隠していたのかもしれませんが。

そこで、九大生の場合に、教育熱意が直接的に評価につながらない理由について考えてみます。大学に入学して間もない頃は、ルール学習と記憶学習で慣れ親しんだ教え・教わる間柄が持ち越されると仮説を立てていたのですが、九大生の集団士気（モラル）に、この仮説は通用しないようです。教える・教わる間柄では、教える側が能動で教わる側が受動です。しかし、九大の低年次学生は、①教わることよりも、自らが（能動的に）学ぶことの何であるかについて気づいているのではないかと、②ルール学習や記憶学習でなく、自ら調べて探究する学修を志向しているので、熱意をもって教える教師が暗々裏に求める従順に教わる学生であるだけでは納得しないのではないかと、③ああしなさい、こうしなさい、と指導されて守るルール学習だけを積みあげることの限界を知っているのではないかと、などと考えます。

18年度からの全学教育の〈学生による授業評価〉は、動機づけについての事前調査から、九大生が高校生のときよりも、①「～のためになる」かどうかよりも、学びそのものに充実を覚えていること、②知力を鍛えることにやり甲斐を見いだしていること、③将来、自らが立ち往生しないように学んでいること、などを知って改訂しました。今後も、学生の学びについて知りえたことに基づいて、教育課題に取り組んでいきます。

（文責：長野 剛）



## こんなとき、学生生活・修学相談室を利用してください。

—新しく九大生になった人に、すでに九大生の人にも—

ふく ども 留 り 美  
福 留 留 美

みなさん、こんにちは。新学期のスタートにあたって、ここでは学生生活・修学相談室についての紹介をしたいと思います。

大学生生活を始めてみると、誰でも入学前には予想していなかったようなことで困ったり、悩んだりすることがあります。大学内には、相談窓口がいくつかありますので、状況や問題に応じて上手に利用してください。学生生活・修学相談室では、以下のようなさまざまな問題について、学生さんと一緒に話し合いながら、解決の糸口を丁寧に探していくことをします。利用できる人は学部生、院生を問いませんし、保護者の方の相談にも応じています。

### <新しい環境への戸惑い>

- ・福岡に来て、カルチャーショックを受けた
- ・編入学で新しい大学環境になれない
- ・他大学部出身で、新しい研究室の雰囲気になじめない

### <勉強>

- ・大学での勉強の仕方を知りたい
- ・時間割の組み立て方を教えて欲しい
- ・単位取得が進まない

### <学生生活>

- ・大学入学後、目標がなくなり意欲がでない
- ・授業、サークル、バイトの時間配分に迷っている
- ・サークルの活動はしているが、授業には出れていない
- ・バイトが忙しく、疲れて朝起きれない
- ・朝起きれずに、だんだん授業に出れなくなった

### <人間関係・対人関係>

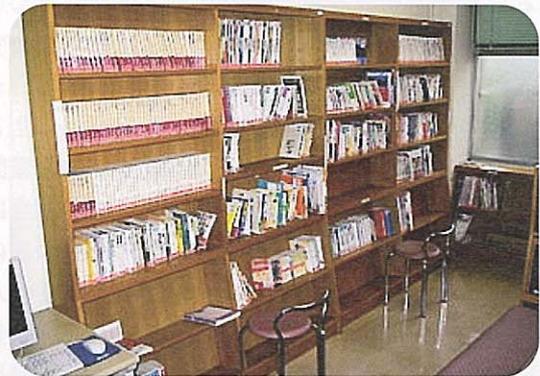
- ・グループの人間関係について話を聞いてほしい
- ・家族のことで悩んでいる
- ・クラスの友人関係で困っている
- ・研究室での教員や友人関係がうまくいっていない
- ・異性の友人のことで話をしたい
- ・人前で緊張してうまく話せない
- ・人との付き合い方をうまくしたい

### <進路>

- ・大学卒業後、進学するか就職するか迷っている
- ・進路をどのように決めたらいいのかわからない

### <そのほか>

- ・アルバイト先で困ったことが起きた
- ・学部や学科を変わりたい



### ブラウジングルームのご案内

本館1階玄関入って、左手すぐのガラス張りの部屋です。各学部、学府、専門職大学院の要項、研究室案内、大学院情報、資格・進路選択や生活情報に関する書籍も多数準備されています。開室時間は、月～金曜日の9:00～17:00です。

相談教員が直接アドバイスをして短期間で解決できる問題もあれば、絡まった糸をほぐしつつ、時間をかけてゆっくり解決の道を探さなければならない場合もあります。今まで他人にあまり相談せずに自己決定してきた人も、事柄によっては他人に話してみることも覚えてください。好むと好まざるとにかかわらず、生きていく中でさまざまな種類の困難に遭遇しますから、対処の方法を一つではなく、いくつか身につけておく方が安全と言えるのではないのでしょうか

### — 相談したいときは —

「学生生活・修学相談室受付事務室」（六本松地区本館1階、3ページ参照）を直接訪ねるか、あるいは電話で相談の申し込みをしてください。常任相談員（カウンセラー）との面接の日時を決めます。

■ 受付電話番号 726-4806（受付事務 畑山涼子）

■ 受付時間 9:00~17:00（昼休み 12:00~13:00）

常任相談員の研究室（六本松地区本館1階）を直接訪ねてもかまいません。

■ 常任相談員（カウンセラー）・電話番号

吉良安之 726-4804 田中健夫 726-4802 福留留美 726-4805 高野尚子 726-4803

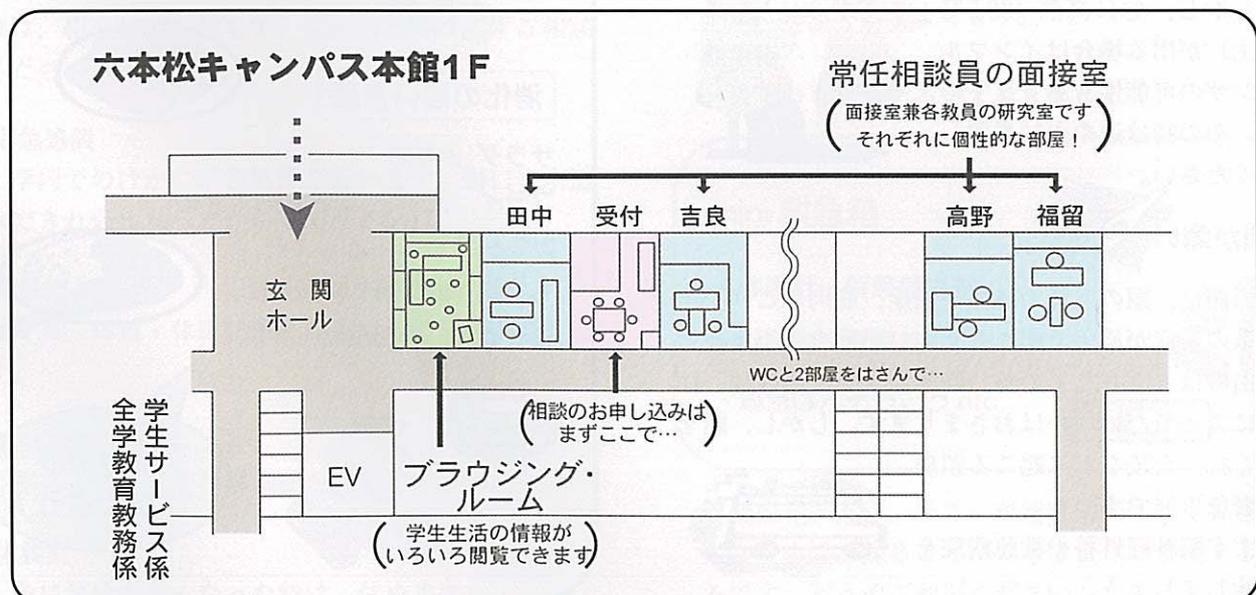
○相談にあたるカウンセラーの教員（常任相談員）4名は臨床心理学の専門教員です。相談の秘密には十分な配慮をしています。また、修学上の相談で、各学部や学府の専門的内容の相談（履修の仕方、勉強の仕方、将来の進路など）については、必要に応じて各学部や学府の相談員の先生方を紹介します。

■ 伊都キャンパス分室

ウエスト4号館2階にあります。月・水・木曜日の13:00~17:00に開室しています。開室時間帯は802-3305に電話で予約して下さい（ただし面接中は対応できません）。それ以外の曜日の予約は学生係カウンター「何でも相談窓口」（802-2722）でして下さい。

■ 学生生活・修学相談室のホームページ

相談室のホームページを開設しています。常任相談員の教員がそれぞれの活動やメッセージを載せていますので、是非ごらんになってください。アドレス <http://cg.rc.kyushu-u.ac.jp>



# 健康科学センター健康相談室より

皆さんこんにちは。新しい学年がスタートしましたね。大学生活はいかがですか？新入生の皆さんは、期待に胸躍らせていることでしょうか。他の学年の皆さんも1年の始まりに気持ちを新たにしているところでしょうか……。

さて、新しい生活（環境の変化）は、体調にも少なからず影響を及ぼします。もし心身の不調を感じたら、早めの対応を心がけてください。今回は、症状ごとにちょっとしたアドバイス……です。



## ○ 風邪

風邪は、ウイルスの感染によって起こります。のどの痛みや咳、鼻水などの症状は、侵入したウイルスを攻撃し、排除しようとする身体の防御反応です。

残念ながら風邪には特効薬はありません。安静に過ごすことが一番です。症状がひどく眠れない時などは、症状を和らげる薬を使用することもあります。



## ○ 下痢

下痢は、ウイルスや細菌によって大腸の粘膜が炎症を起こした時に見られる症状で、食べたものが腸で十分吸収されずに出てしまう状態です。1日に何回も下痢をする、熱や嘔吐を伴う場合はすぐ受診しましょう。

水分をじゅうぶんに補給していれば、少々食べられなくても心配はいりません。症状が軽くなってきたら、消化のよいものを食べましょう。

## ○ 熱が出たら…

発熱は、身体の中で炎症反応が起きているサインです。徐々に上がる熱はピークを越えた時点で、自然に下がってきます。安静にして体力の消耗を防ぎましょう。水分をじゅうぶんに補給しながら休んでください。

しかし、急に高熱（38.5℃以上）が出る場合はインフルエンザの可能性もありますので、その時は速やかに受診してください。



## ○ 頭が痛い

頭痛は、頭の血管の拡張や炎症、筋肉のこりや神経系の炎症が原因で起こります。風邪や寝不足など、理由のはっきりしている一時的な頭痛であれば、休養によってたいていはおさまります。しかし、頭を強く打った後などに起こる頭痛は緊急事態です。

すぐ脳神経外科や救急病院を受診しましょう。



### 消化のよい食品

おかゆ、雑炊、うどん  
スポーツ飲料（冷たくないもの）



### 消化の悪い食品

サラダ（生野菜）  
フライ、天ぷら（油を使用した料理）  
カレーライス  
もつ鍋（香辛料を使用した料理）  
コーヒー、炭酸飲料、牛乳



下痢の時は  
ひかえよう！

## ○ けが

けがをしたら、まず水道水でよく洗いましょう。砂やゴミを残さないようにしてください。

出血がある時は、傷口を強く押さえ、傷口をなるべく心臓より高い位置にあげて、止血しましょう。あとは、ガーゼや応急バンドで保護し清潔にしておきましょう。

## ○ 捻挫・打撲

**RICE** で  
応急処置！

R : Rest (安静)

I : Ice (冷却) 炎症を抑えます。

C : Compression (圧迫) 出血と腫れを防ぎます。

E : Elevation (挙上) 腫れを防ぎます。

この4つの応急処置を行い、安静にします。出血

や腫れがひどくなる時は、骨折の可能性もありますので、整形外科を受診してください。

## ○ 生理痛

生理痛の主な症状は、下腹部の痛みと腰痛ですが、なかには頭痛に悩む人もいます。

日常生活に支障をきたすほど痛む場合は、鎮痛薬を使用してみてもよいでしょう。痛み始めたら早めのむと効果があります。また冷えては生理痛を悪化させるようです。おしゃれにも挑戦したいのですが、“なま足”は避けて、足腰の保温にも気を配ってください。



## 健康相談室ご利用案内

### ♪ 利用できる時間

月～金曜日9:00～17:00

### ♪ 健康相談

内科医や精神科医の診察を受けることができます。精神科は予約制です。

診察時間は曜日によって異なりますので、相談室入り口の掲示で確認してください。

### ♪ 医療機関の紹介

医師の不在日や相談内容によっては、近医を紹介する場合があります。九大病院など総合病院の受診には、紹介状が必要です。受診希望時はまずご相談ください。

### ♪ 応急処置

学内でのけがに応急処置を行います。傷口を水道水できれいに洗ってから来て下さいね。

### ♪ 健康チェック

身長・体重・体脂肪率・血圧などの測定ができます。

### ♪ 健康診断

毎年4月に定期健康診断があります。

### ♪ 休養室

急に気分が悪くなった時は、休めます。

六本松地区健康相談室では、  
医師や保健師・看護師が皆さんの  
心身のご相談に応じています。  
ぜひご利用ください。

## 一人暮らしを始めた方へ

「もしも……」の時、心細くならないように準備しておきましょう。

### ・健康保険証

医療機関を受診する際に必要です。早めに保護者の加入保険に所定の手続きを行い、遠隔地保険証を手元に持っておきましょう。

### ・救急箱

以下のものをそろえておきましょう。

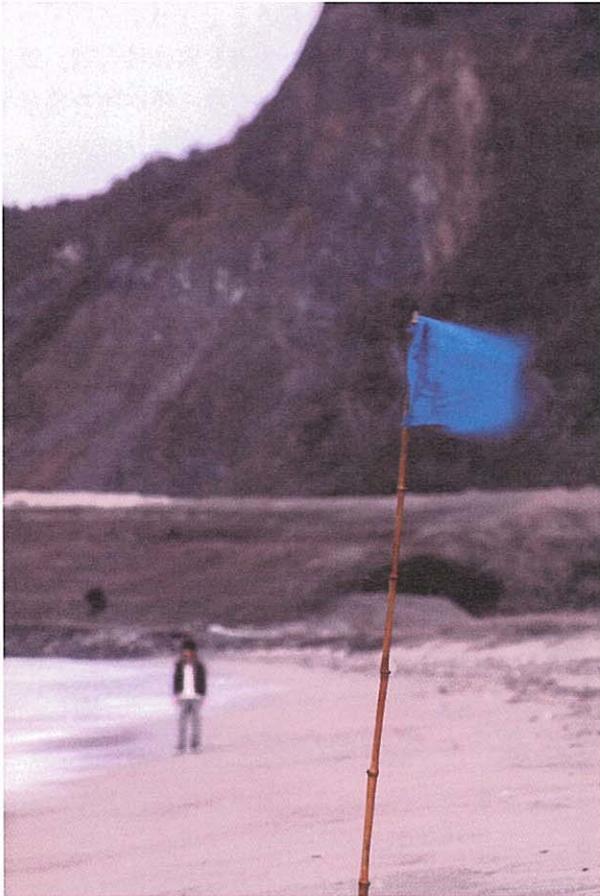
### mini 救急箱

- ・体温計・解熱鎮痛薬
- ・かぜ薬・胃腸薬
- ・応急ばんそうこう etc.

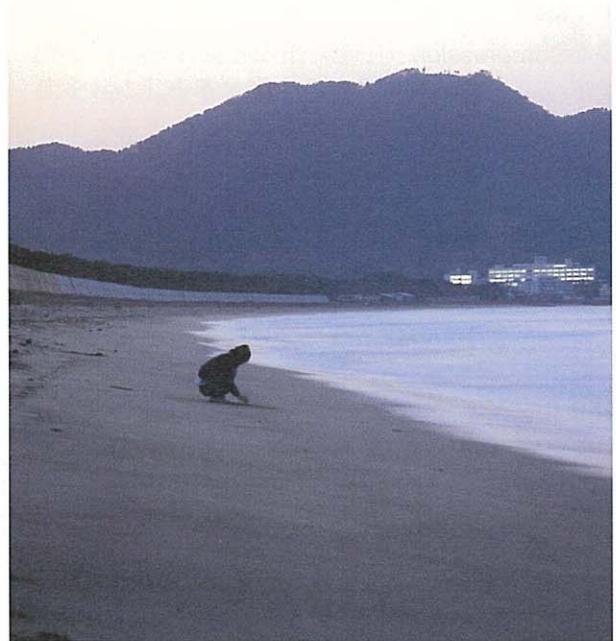


健康相談室は、皆さんが健康的で楽しく有意義な大学生生活を送ることができるように支援するところです。どうぞご利用ください。

## 表紙・裏表紙説明



(表紙)



(裏表紙)

工学部地球環境工学科4年 石川 尚承

ぼんやりかすむ 旗を見つけた  
遠いのか近いのか よくわからない  
でも なんとなく方向はわかる  
一直線じゃなくても 進んでいけば だんだんはっきり見えてくるはず  
風が強くても 波が高くても 旗が立っていれば大丈夫  
何もせず見失うくらいなら とりあえず進んでみよう

春になり、新たな1年がスタートしました。目標を見つけることから始めてみませんか？

## あ と が き

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。大学は高校と違って自由ですが、自ら動かないことには何も始まりません。まずは本誌の「九大を使いこなそう」に目を通して、九大を使いこなすべく奮闘してみてください。聞き飽きているかもしれませんが、光陰矢のごとしです。卒業間近になって、「やり残したなあ」という声をちよくちよく耳にしますが、みなさんはそうならないよう日々を大切に、充実した学生生活を過ごしてください。

さて、毎年この時期になると希望に満ちた新入生で学内は満ち溢れ、活気に溢れています。春の穏やかな天気とともに活気のあるキャンパスを歩くのは気持ちのいいものです。今年も彼・彼女たちから大いに刺激を受け、気持ちも新たに新年度に望みたいと思います。講義等で何か質問がありましたら、いつでも教職員を訪ねてみてください。みなさんと話す機会を楽しみにしています。(T)

九大を使いこなそう…………… 2	Let's Debate in Our Life!
九大六本松地区事務窓口案内…………… 7	～ディベートのすすめ～……………中里 博史…16
<b>世界・日本 28</b>	Find Your Future プロジェクトを通して
ケンブリッジ・ミュンヘンで外国語を学ぼう	学んだこと……………河端 信吾…18
ケンブリッジ大学英語研修……………鈴木 右文… 8	英語を何とかしたい皆さんへ
感謝の日々……………平田 えり… 9	—英語学習に関する誤解を解く—
ゲーテン・ターク,	……………鈴木 右文…20
ドイッチュラント!……………福元 圭太… 9	〈学生による授業評価〉をめぐって
「第二の故郷」……………尾下 優子…10	—いじめ・問題と課題・熱意と動機—
JTWの授業を受講しよう!!	高等教育開発推進センター…22
学内留学……………松永 孝弘…11	こんなとき、学生生活・修学相談室を
<b>サークル紹介 40</b>	利用してください。
よく歌い、よく遊ぶ～九大混声合唱団	—新しく九大生になった人に、
……………坂東 愛美…12	すでに九大生の人にも— …福留 留美…26
医学部空手部紹介……………平尾真裕子…13	健康科学センター健康相談室より……………28
演劇で遊ぶ。演劇を遊んでみる。……………高山 力造…14	表紙・裏表紙説明……………石川 尚承…30
ねじれの冬……………深水 郁…15	

※在学生執筆者の学年の表示は、2007年4月1日現在です。

### 投稿・写真歓迎

編集委員会ではradixへの投稿、紙面を飾る写真を募集しています。あなたに関わっている様々な活動、六本松地区や「全学教育」にまつわる出来事、六本松の思い出など、六本松や「全学教育」に関するものであれば何でも結構です。

表紙写真も、キャンパスでのもの、旅先でのものをはじめ、あなたの作品、ぜひ紹介したい知り合いの作品など、広く募集しています。応募、推薦の対象は六本松や「全学教育」に関わりのある全ての方です。

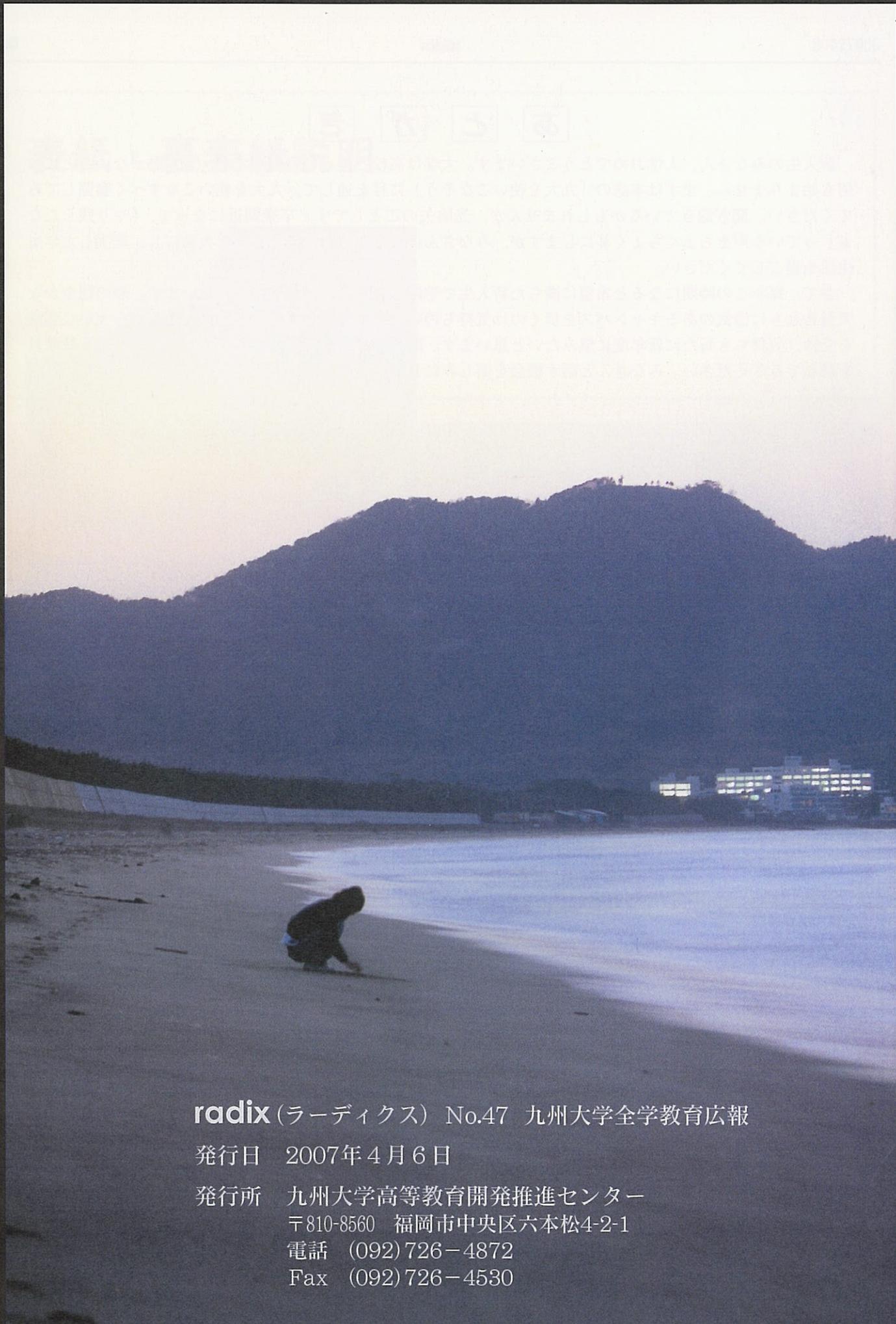
### radix 学生モニター募集

編集委員会ではradixに対する学生の意見・要望を聞くためにモニターを募集しています。また学生編集委員も募集しています。募集は常時行っています。

### 投稿、写真、学生モニター・編集委員の応募は下記で受け付けます。

編集委員 池田 伸夫 (工学 ☎642-3763)	石井 豊 (数理 ☎726-4722)	一宮 厚 (健 七 ☎583-7858)
(06年度) 伊原 久裕 (芸 工 ☎553-4514)	大石 一夫 (事務室 ☎726-4582)	大津 隆広 (言 文 ☎726-4668)
小山 紘三 (高推セ ☎726-4585)	瀧本 太郎 (経 済 ☎642-2485)	田中 健夫 (高推セ ☎642-4802)
西野 常夫 (比 文 ☎642-4600)	宮本 智文 (薬 学 ☎642-6636)	
学部教育係 (事務室 ☎726-4872)		

(お詫び) 2007年1月12日発行のradix No.46 20ページに掲載した放送大学との単位互換協定の締結時期に誤りがありました。九州大学と放送大学間の単位互換協定は2005年8月に締結されました。



**radix** (ラーディクス) No.47 九州大学全学教育広報

発行日 2007年4月6日

発行所 九州大学高等教育開発推進センター

〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4872

Fax (092) 726-4530